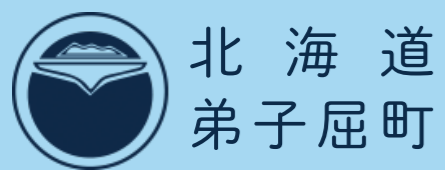


弟子屈町 観光振興計画

弟子屈町らしい持続可能な観光の実現に向けて



弟子屈町の観光情報
(弟子屈なび)
www.masyuko.or.jp



弟子屈町役場
www.town.teshikaga.hokkaido.jp

観光振興計画
2022年4月施行

Photo: Tomoki Kokubun

2022年4月施行
弟子屈町



目次

はじめに	02
● ビジョン	
● ごあいさつ	
● 観光振興計画策定の意義	
第1章 観光振興計画について	06
第2章 弟子屈の観光が抱える課題の全体像	10
第3章 課題分析と解決に向けたアクション	15
● 世界基準の観光ガイドラインの導入	16
● A：持続可能なマネジメント	18
● B：社会経済の持続可能性	26
● C：文化の持続可能性	32
● D：環境の持続可能性	34
第4章 アクションプランを後押しする 組織と取り組み・財源	39
第5章 成果目標の設定	46
第6章 事業展開の方向性（ロードマップ）	51
巻末資料	
アイデア集	55
用語集	56

Slogan

行きたいまちへ、
生きたいまちへ。

Statement

美しい景色を目で見るだけでは、弟子屈はもったいない。

山を歩き、川を下り、湯に癒され、食をたのしむ。

火山が育んできたこのまちの過去に耳を傾け、

共に目指すべき未来を語り合いたい。

弟子屈の魅力は、ふだんの暮らしの中にあふれている。

だから暮らすように旅をすれば、きっとこのまちをめぐる価値に気づく。

だからもっともっと、伝えていこう。

このまちの歴史を、あなたが感じる魅力を、こうなりたいという未来を。

一度きりではなく、何度でも訪ねたくなる場所になる。

その先で弟子屈は、ここに生きてみたいというまちになっていきたい。

Credo

- 1 自然と人の共生をバランスよくつづけよう
- 2 再発見した弟子屈の魅力を
訪れた人々につたえよう
- 3 守ることと遺すことで
弟子屈の価値を次世代につなごう
- 4 挑むことと生み出すことで
新しい弟子屈の価値をつくろう

まずは“行きたい”、
そして“生きたい”まちになるために。

つづける
つたえる
つなぐ
つくる

【Slogan：スローガン】弟子屈町のめざす旅行地の姿を簡潔に言い表した語句。ビジョン。
【Statement：ステートメント】スローガンを補足する声明書。
【Credo：クレド】スローガンを元に、実際に行動するときの価値基準や行動指針のこと。

— ㊦ ごあいさつ ㊦ —

自然豊かなひがし北海道においても、摩周湖、硫黄山、屈斜路湖などを擁するわが弟子屈町の景色は群を抜いて素晴らしく、出張先から戻る車窓にわが町の風景が見えてくると、いつも心からの安らぎを覚えます。

弟子屈町は町の面積のおよそ3分の2が阿寒摩周国立公園に含まれ、スケールの大きな自然は町民の誇りです。100年先も続く持続可能な町をめざす「弟子屈町観光振興計画」とは、先人が築き上げ守り抜いてきたこの自然環境を、未来につなげていく観光地域づくりに他なりません。

2020年に世界中にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症は、弟子屈町の観光産業にも大きな影響を及ぼしました。長引く自粛生活を経て、密から疎へ、都会から自然の中へ、人々のライフスタイルや価値観が大きく変容したことは、日本にとっても弟子屈町にとっても、大きな転換点ともいえる出来事であったことは間違いありません。大きな打撃はありましたが、改めてひがし北海道の魅力が見直される契機になったと考えています。一方で、IT化が進んだ現代でも、交流はすべての物事の礎であり、他者との関わりなしに生きていくことはできません。

観光地域づくりにおいて、グローバルな視点はとても大切なことです。わが町だけが良ければという視点は捨て、常に地球規模で物事を考えていかななくてはなりません。本計画では、世界基準の持続可能なガイドラインを導入しています。グローバルな問題の答えはすべて地域にあると言われてしています。まずは手の届くところから、始めましょう。

観光とは、「国の光を観る」という中国の古典が語源であると言われてしています。光を当てるべきは町の宝。その宝とは今ここにある自然のみならず、先人より受け継いできた暮らし、食、この町で暮らすすべての方々です。ひとりひとりが未来のために思い、「変えていくこと」と「変えないこと」を見定め、自ら暮らしやすい町を作っていくこと。そして子々孫々に伝え、繋いでいくこと。観光は旅行者や、観光事業者だけのものではなく、全ての町民がおもてなしの心を持って訪れる人々に接し、まちを盛り上げていくこと。それが即ち持続可能な観光地域づくりなのだとは私は考えています。本町は、より良い未来を創り上げていく可能性に満ちています。

今回完成した本計画の策定作業に携わっていただいた町民や事業者の皆さま、貴重なご意見やご提案をお寄せくださった皆さまに、心から感謝を申し上げます。本計画は作って終わりではなく、これを実行し、時代とともに修正をしながら育てていきます。この計画を活用して一緒に観光のまちを築いていきましょう。

弟子屈町長 徳永哲雄

豊かな自然や人々の暮らしを守り続ける 「弟子屈町らしい持続可能な観光」

観光は「総合産業」と言われています。経済・社会基盤が脆弱化する社会で雇用を生み出し、経済社会の発展の重要な役割を担う産業です。弟子屈町においても、宿泊業や飲食業はもちろんのこと、農業、水道やガス、運送業、交通事業者などあらゆる産業への波及効果が大きく、すべての産業のけん引役となることが期待されています。また、観光業は機械化のできない産業であることから、雇用促進の面でも経済効果が高い産業であると言えます。

全国有数の豊かな自然を擁する弟子屈町では、一過性のマストゥリズムで地域の自然や暮らしに負荷をかけることで経済を活性化させていくのではなく、中長期の視点で「持続可能な観光地域づくり」を行っていくことが求められています。町が直面するさまざまな社会課題を解決し、地域の魅力である豊かな自然のバランスを保った成長を実現するためには、町民と行政が同じ目線で協働していくことが大切です。

目的

「弟子屈町らしい持続可能な観光」の指針の共有と 実現に向けた取り組みを促進

- 本計画の目的は、豊かな自然や人々の暮らしなど、町の魅力を守り続けるための一つの手段として観光産業が重要である現状や、弟子屈町らしい「持続可能な観光のあり方」の指針を共有することです。
- 町民と行政が共通認識を持つことで、実現に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

ターゲット

地元の関係事業者に加えて、町民すべての心に残り 訪れる人の共感を生み出す観光振興計画

- 本計画は、地元観光事業者だけでなく全ての町民、そして弟子屈町を訪れる旅行者に向けて策定されたものです。

大切なこと

「一人一人の日々の取り組み」が弟子屈町の未来を創り出す

- 中長期視点で「持続可能な観光」を実現するためには、豊かな自然を守るだけでなく、環境・社会経済・文化がともにバランスよく発展していくことが重要です。それは一人一人の日々の小さな取り組みから始まるものです。
- 行政だけでなく町民のアイデアや行動を掛け合わせ、日々の取り組みを積み重ねることで、未来を共に創っていくことができると考えています。

【参考①】



【参考②】

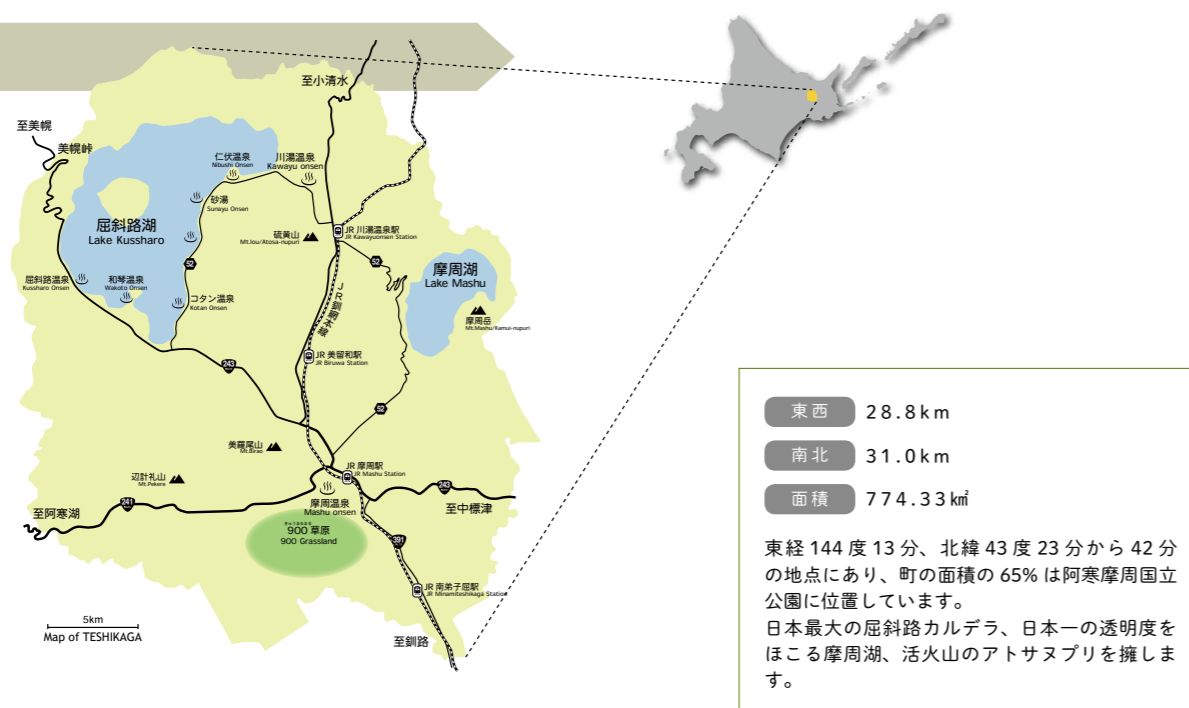
持続可能な観光とは

UNWTO（国連世界観光機構）によると、持続可能な観光とは、「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会文化、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義づけられています。

1 \ 第1章 / 観光振興計画について

弟子屈町の自然観光資源

弟子屈町



弟子屈町の自然観光資源

弟子屈町の「自然観光資源」はエコツーリズム推進全体構想で定義しています。

自然資源に恵まれた弟子屈町ですが、平成28年に策定（令和2年に変更認定）された『てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想』において、弟子屈町の「自然観光資源」について詳細に定められています。本観光振興計画においては、エコツーリズム推進全体構想で定めた自然観光資源をそのまま採用することとし、新たな定義づけは行いません。

弟子屈町の自然観光資源

① 動植物の生息地または生育地その他の自然環境に係るもの

- 【動物】哺乳類（エゾシカ、ヒグマ、エゾシマリス、エゾモモンガ等）、鳥類（タンチョウ、シマフクロウ等）、魚類（イトウ、ヒメマス等）、両生類、昆虫類、甲殻類（ニホンザリガニ）、火山活動の影響を受けた昆虫類
- 【植物】森林植生、噴気孔原植生、弟子屈の名木、マリゴケ
- 【動植物の生息地、生育地】オオハクチョウ飛来地、つつじヶ原
- 【地形・地質】火山（硫黄山）、火山地形・活動（カルデラ、溶岩円頂岩）、温泉、湖沼（摩周湖、屈斜路湖、キンムトー）、河川（釧路川）、滝
- 【自然景観】眺望（峠）、星空、雲海

② 自然環境と密接な関係を有する風俗習慣その他の伝統的な生活文化に係るもの

- 【史跡】青葉トンネル
- 【伝統文化】アイヌ文化

▲「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」より一部抜粋

観光振興計画の位置付け・期間

位置付け

これからの弟子屈町の総合的かつ計画的なまちづくりの方針を示す「第5次弟子屈町総合計画」が令和3年度をもって終了し、それを引き継ぐ形で令和4年度から令和11年度を計画期間とした「第6次弟子屈町総合計画」が策定されました。本計画は、第6次総合計画に紐づくものであり、人口減少克服・地方創生を目的とした「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略」とも足並みを揃え、具体的なアクションプランを定めています。

策定：2022年4月
計画期間：令和4～11年度

弟子屈町総合計画

～水と森と人がともに輝き、活力あふれる自立したまち～

6つの重点プロジェクト

- 環 人と自然が共生するまち
- 活 活力・活気・雇用を生み出すまち
- 暮 誰もが安心して暮らせるまち
- 育 豊かな心を育て、文化を大切にするまち
- 人 行動する人を育てるまち
- 公 誰でも参加することができるまち

策定：2022年4月
計画期間：～令和11年度

弟子屈町観光振興計画

- 持続可能なマネジメント
- 社会経済の持続可能性
- 文化の持続可能性
- 環境の持続可能性

対象期間

第6次弟子屈町総合計画は、令和4年度から令和7年度の前期と、令和8年度から令和11年度の後期に分かれています。本計画においては長期的な視点で観光政策を俯瞰しながらも、4年後ごとに軌道修正を加えながら、総合計画と連動する形で具体的なアクションプランを推進していきます。

2022年 (令和4)	2023年 (令和5)	2024年 (令和6)	2025年 (令和7)	2026年 (令和8)
前期				後期
<ul style="list-style-type: none"> 第6次弟子屈町総合計画（前期） 次期創生戦略（第6次弟子屈町総合計画に統合） 弟子屈町観光振興計画 				軌道修正 ▶▶▶▶▶

観光の重要性

日本にとっての観光の意義

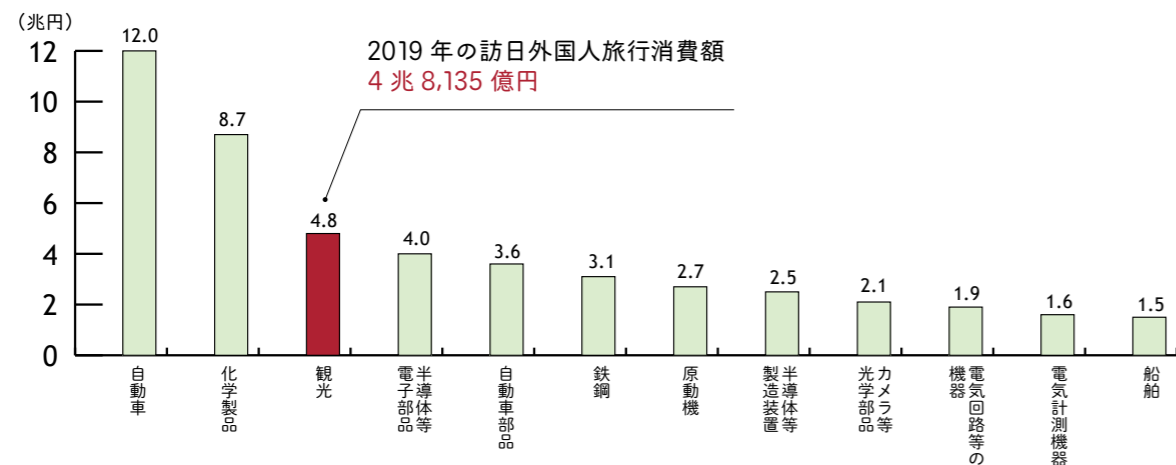
観光庁によると、日本にとっての観光の意義とは主に以下の4点です。

- 1 成長戦略の柱**
 急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の国際観光需要を取り込むことによって、日本の力強い経済を取り戻します。
- 2 地方創生の鍵**
 人口減少・少子高齢化が進行する中、国内外からの交流人口の拡大や旅行消費によって地域の活力を維持し、社会を発展させます。
- 3 国際社会での日本の地位向上**
 諸外国との双方向の交流を通して、国際相互理解を深め、我が国に対する信頼と共感を強化します。国際社会での日本の地位を確固たるものとするために、観光は極めて重要です。
- 4 自らの文化・地域への誇り**
 観光で国を開き、外国の人々に日本文化や日本人の本質に触れてもらうことを通じて、日本人自らも、その価値を再認識し、自らの文化や地域を誇りに思います。

訪日外国人の旅行消費額

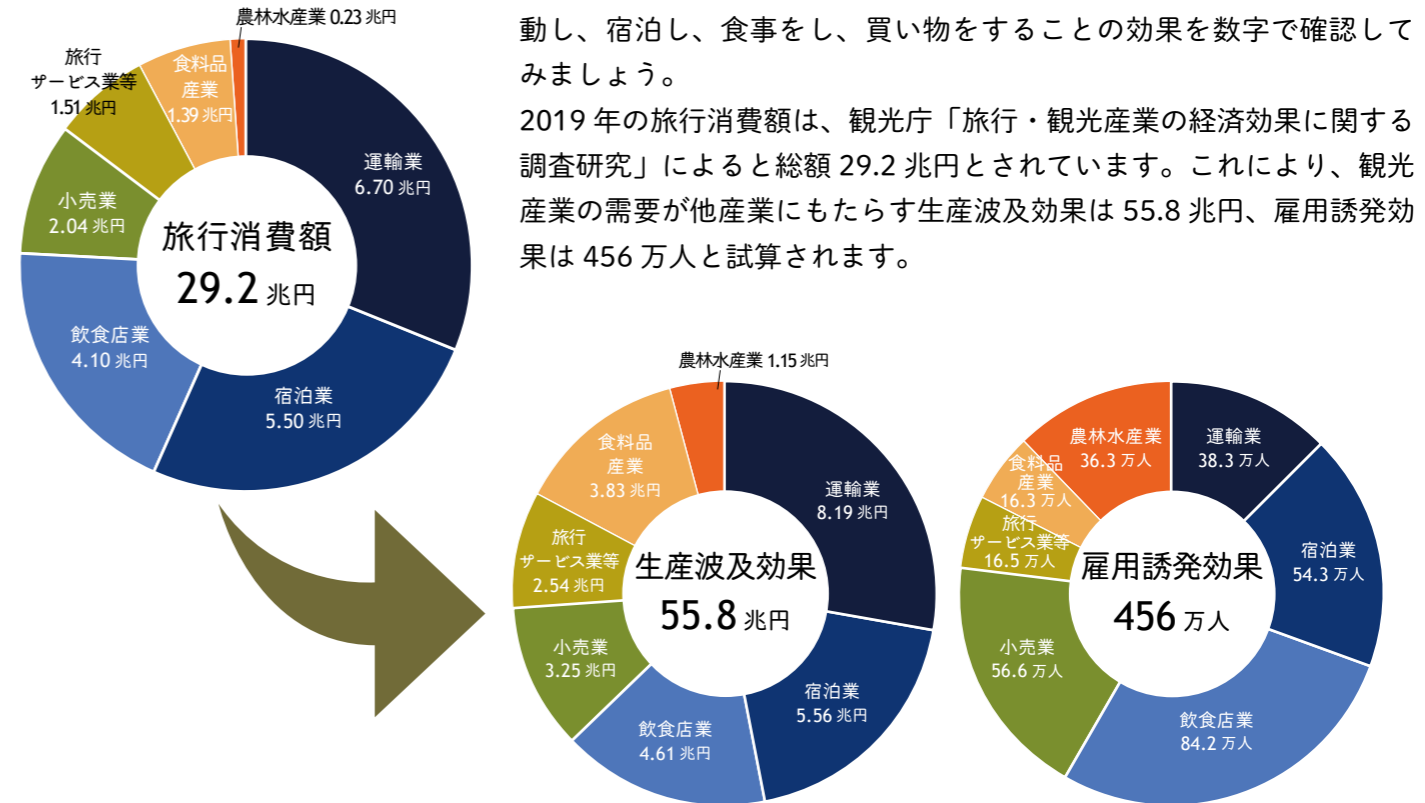
2019年の訪日外国人の旅行消費額は、4兆8,135億円になります。輸出額ベースでは、自動車・化学製品に次ぐ第3位の額となり、日本にとっての観光の重要性は数値でも明らかです。

【参考】訪日外国人旅行消費額の製品別輸出額との比較



出典：観光庁 (財務省「貿易統計」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づく)

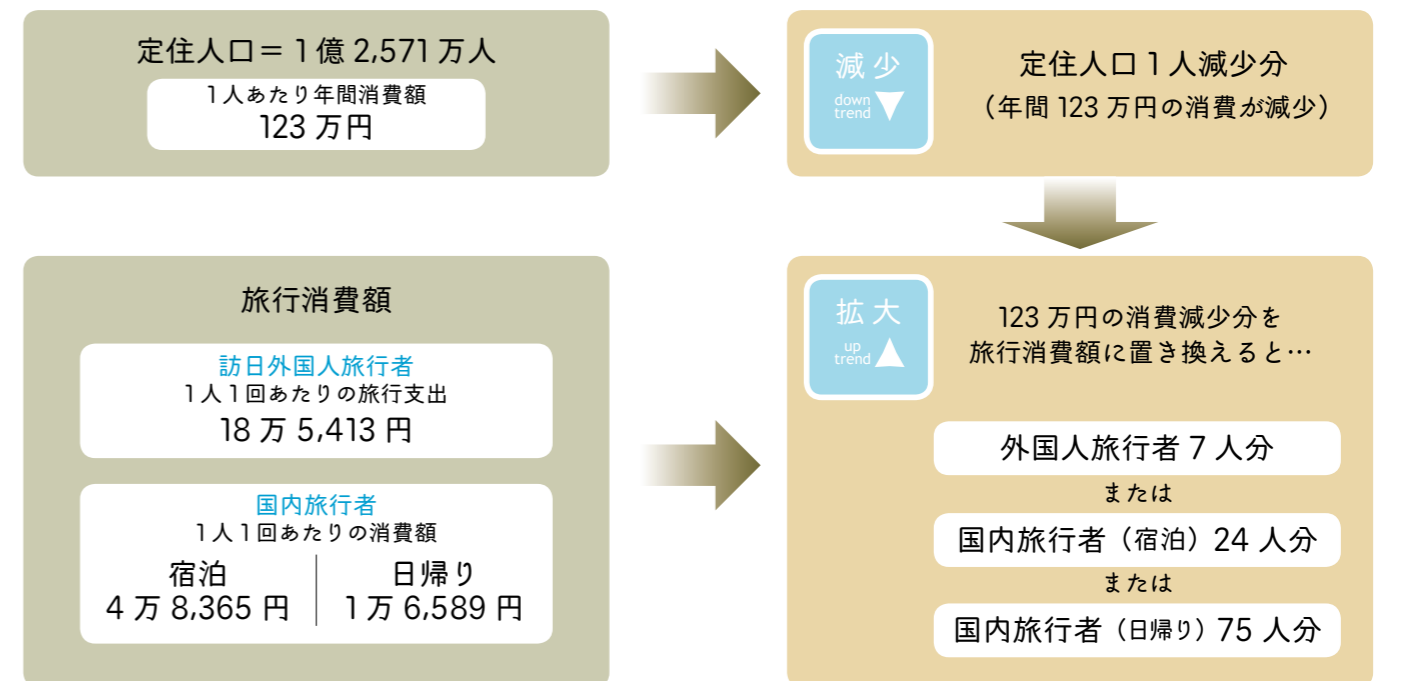
旅行消費額の波及効果



出典：観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

観光交流人口増大の経済効果 (2020年)

定住人口1人当たりの年間消費額 (123万円) は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者7人分、国内旅行者 (宿泊) 24人分、国内旅行者 (日帰り) 75人分にあたります。



出典：観光庁「観光交流人口増大の経済効果 (2020年)」

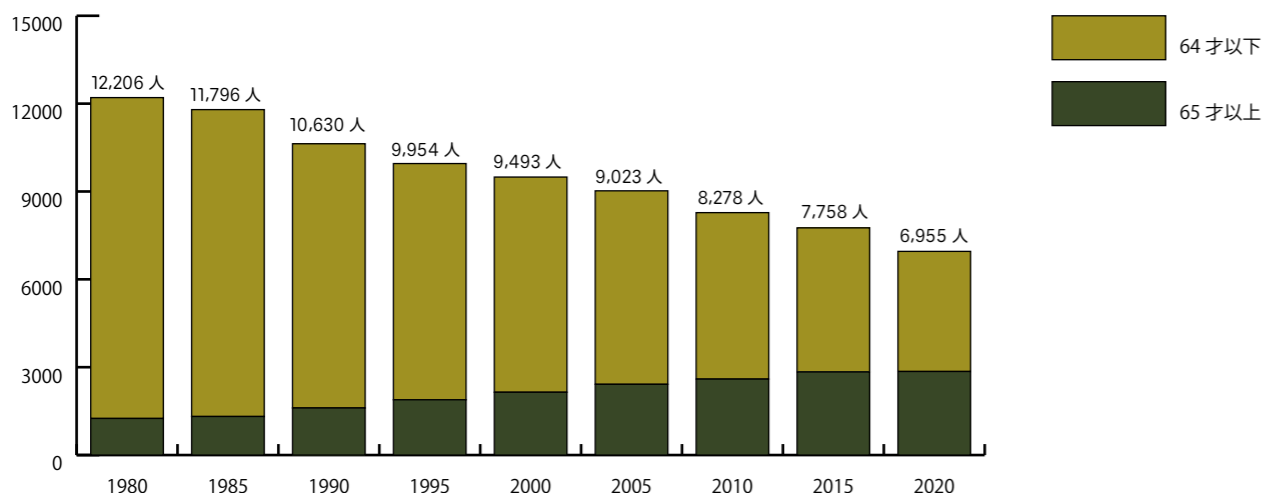
2 \ 第2章 / 弟子屈の観光が抱える課題の全体像

数値から見る観光の現状

課題 1

弟子屈町の人口は1980年の12,206人以降、減少の一途を辿っており、2021年12月末時点では6,840人と、ピーク時の半数近くまで落ち込んでいます。いっぽう、65歳以上の人口は年々増え続けており、急激な少子高齢化が進んでいることがわかります。

人口減少 / 少子高齢化



弟子屈町「第2期てしかが まち・ひと・しごと創生戦略」による将来人口の推計では、2025年には人口が6,469人、2030年には5,825人と今後も人口減少と少子高齢化が加速していくと予想されています。人口減少とそれに伴う地域経済の落ち込みに歯止めをかけるためには、交流人口及び関係人口を増やすこと、域内での消費単価を上げていくことで経済循環を創出していく必要があります。

■ 交流人口 (こうりゅうじんこう) / Exchange population

交流人口とは、その地域を訪れる人々のこと。その地域に住んでいる人(定住人口又は居住人口)に対する概念である。その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、など、特に内容を問わないのが一般的である。

■ 関係人口 (かんけいじんこう) / Related population

関係人口とは、その土地に住んでいる、または移住した「定住人口」でなく、観光などで訪れた「交流人口」でもない、居住地と離れた地域を歩き来して、地域の人々と多様に関わる人々のこと。

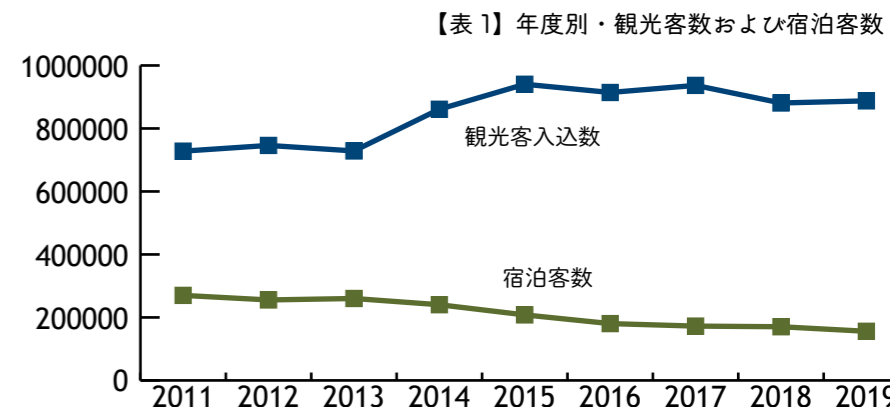
出典：JTB 総合研究所

課題 2

弟子屈町を訪れる観光客数は横ばいが続いています(コロナで一時的に減少している)、持続可能な観光地をめざすためには、宿泊客・長期滞在客を増やしていくことが必要であり、受け皿となる摩周エリア・川湯エリアの整備が求められています。

宿泊客数が減少

弟子屈町を訪れる観光客数は、2015年から横ばいに推移しています。それに対して、宿泊客数は減少傾向にあり日帰り旅行者が増えていると考えられます。今後、経済波及効果を高めるためにも長期滞在を促進する施策が求められています。

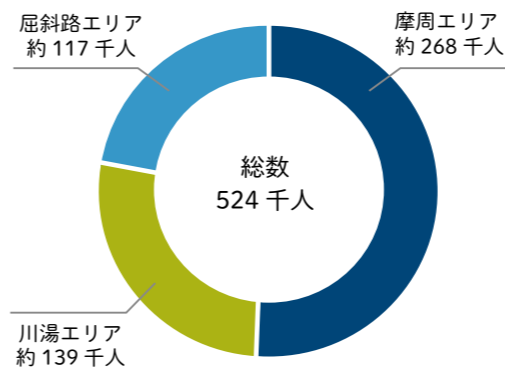


【表1】年度別・観光客数および宿泊客数

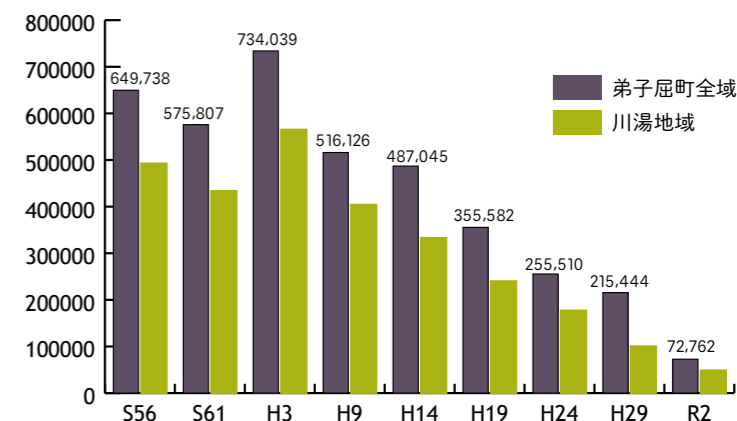
摩周エリア > 川湯エリア

弟子屈町を訪れる観光客は、摩周エリアを訪れる客が最も多く、つづいて川湯エリア、屈斜路エリアとなっています。摩周エリアは日帰り客が多く、川湯、屈斜路エリアは宿泊客を含む割合が高いがいずれも減少傾向にあることがわかります。摩周エリアの魅力向上や施設の整備をはかるとともに、川湯エリアを中心に宿泊客・長期滞在客を受け入れるための再活性化が必要です。

【表2】エリア別観光客入込数(令和2年度)



【表3】年度別宿泊客数推移(弟子屈町全域・川湯地域)



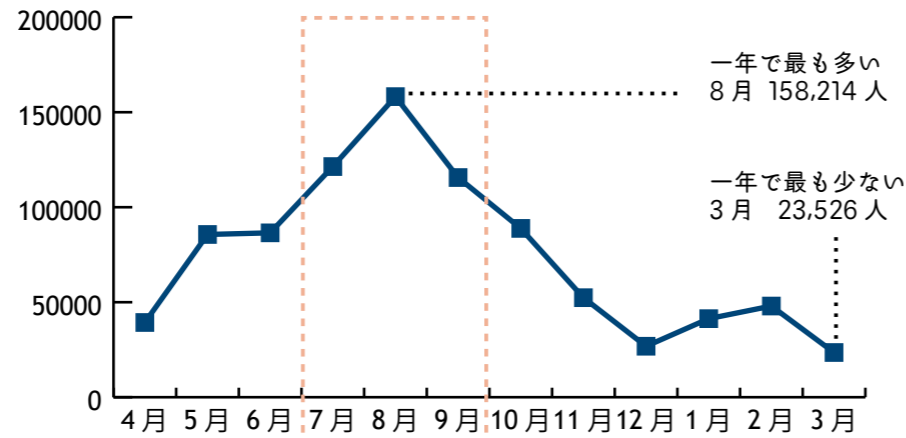
課題 3

弟子屈町の観光は夏のピーク時に集中しており、結果的に観光事業者の繁忙状況や自然・文化資源への負担に影響が出る構造となっています。そのため、年間を通じた分散、富裕層も含めたインバウンド客による来訪の平準化が求められています。

観光需要は夏季に集中

弟子屈町を訪れる観光客数を月別にみると夏季に集中していることが分かります。より持続可能な観光地域づくりに向けて、夏季以外の誘客数の底上げを図るとともに、年間を通して観光産業が活性化することが大切です。

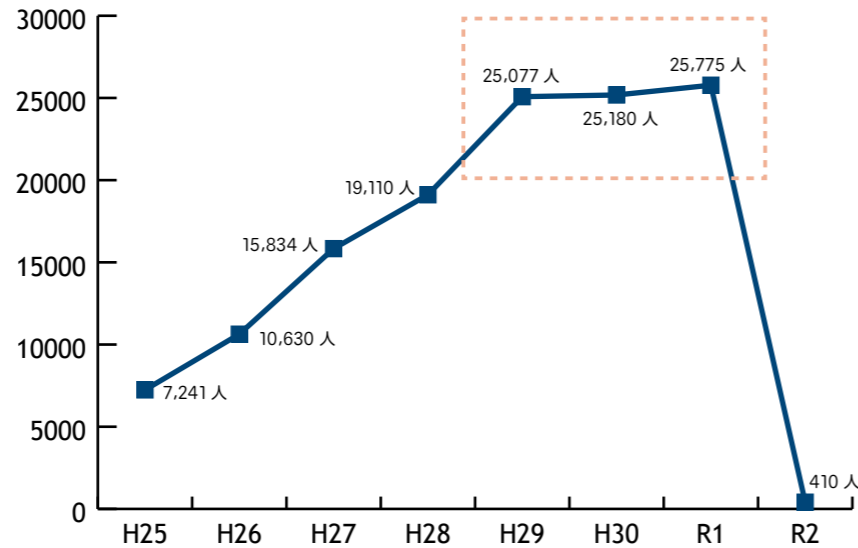
【表 4】弟子屈町月別観光客数（2019 年）



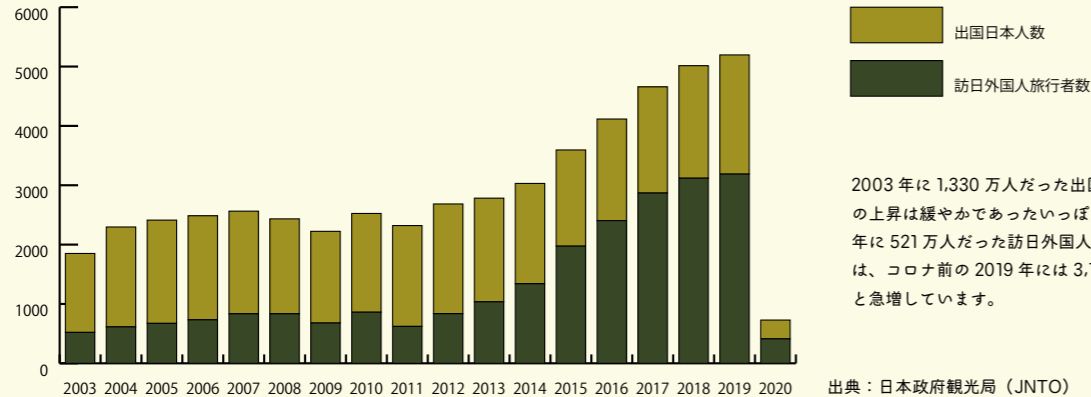
インバウンド取り組みが重要

コロナ前の日本のインバウンドは拡大傾向にありましたが、弟子屈町への訪日外国人客数は、H29年度(2017年)からほぼ横ばいでした（R2年度はコロナの影響で大きく減少）。季節ごとの入込み客数の平準化を進めるにあたっては、冬季の観光活性化とともに、日本のインバウンド市場回復にあわせて、外国人旅行者に向けた取り組みが重要です。

【表 5】弟子屈町内における年度別外国人宿泊者数の推移



【表 6：参考】全国の外国人旅行者数・出国日本人数の推移



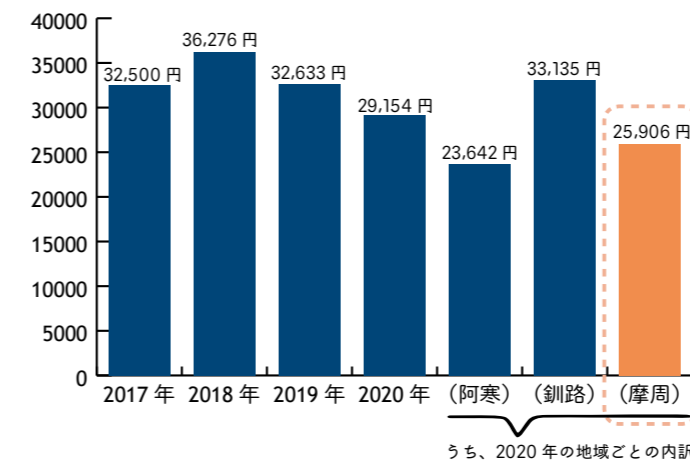
課題 4

水のカムイ観光圏の調査によれば、弟子屈を訪れる観光客の旅行消費額や来訪者満足度は一定の水準に達していますが、釧路・阿寒と比較した場合には相対的に伸びしろがあることが分かります。量から質へのシフト（消費額や満足度の向上）は、さらなる改善の余地があります。

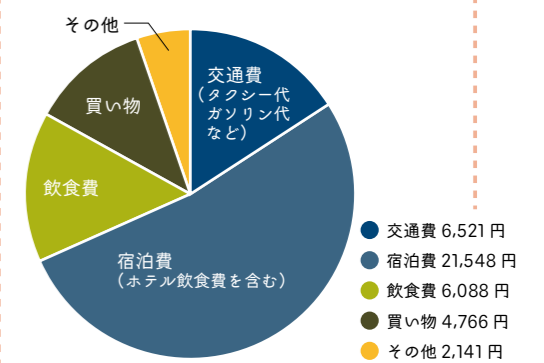
消費額はまだ伸びしろあり

水のカムイ観光圏（釧路湿原・阿寒・摩周）の調査報告によれば2020年度の1人あたりの広域全体の平均消費金額総額は29,154円、その中で摩周エリア：25,906円となっています。調査全体の平均値が、全国平均に比べれば非常に高い数値となっているため「絶対額」よりも、エリア内での相対的な金額で見れば、釧路エリアに比べてまだ伸びしろがあるといえます。また消費額を押し上げているのは、宿泊（21,548円）であり、日帰りではなく宿泊客の獲得が重要であることは消費額の視点からも明らかです。

【表 7】観光消費額（2020 年）



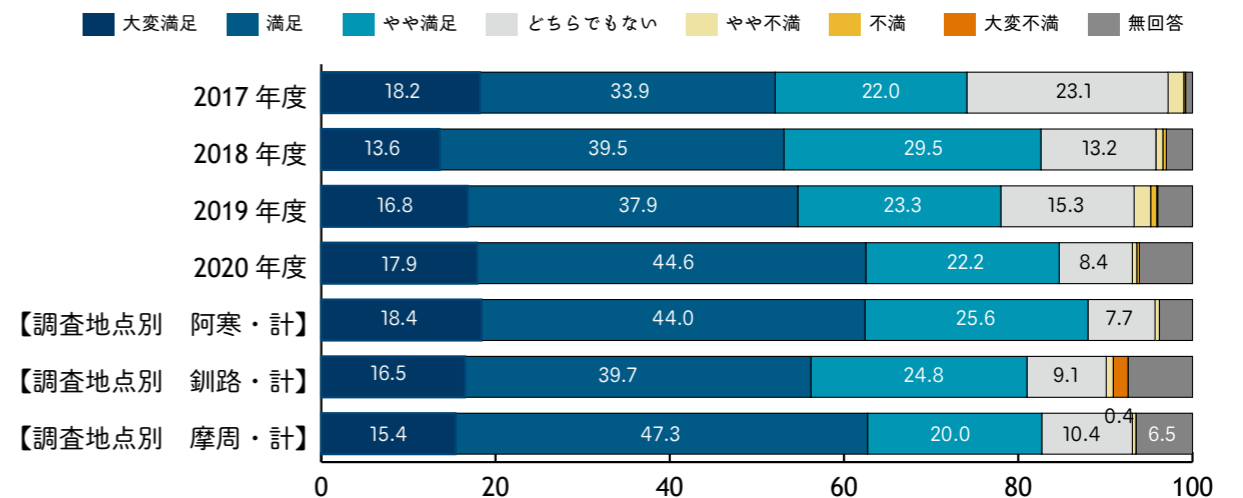
【表 8】摩周地区の消費額内訳



来訪者満足度も改善余地あり

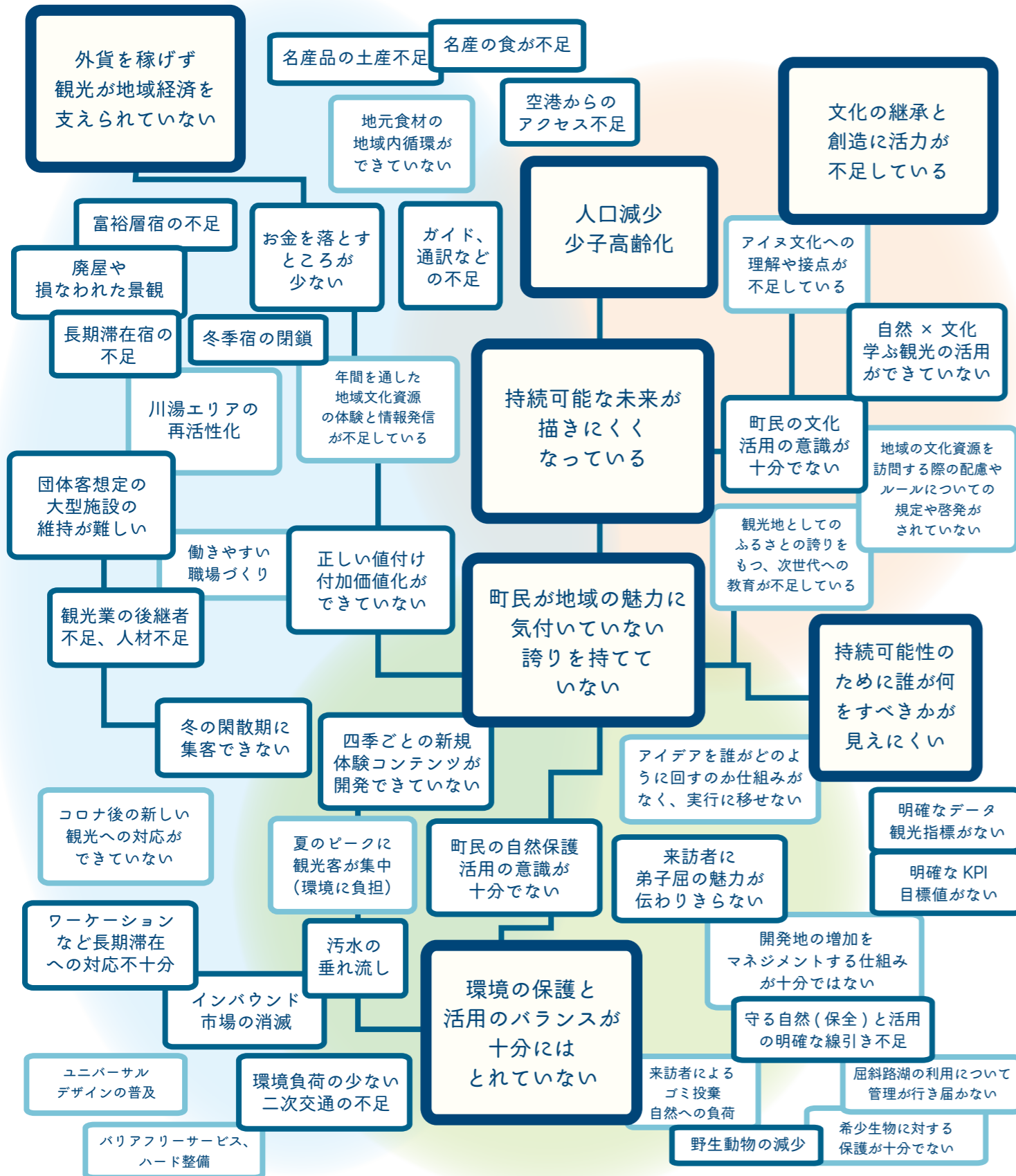
水のカムイ観光圏（釧路湿原・阿寒・摩周）の調査報告によれば2020年度のエリア全体の『大変満足』が18%。摩周エリアは15.4%であり、このエリアでの滞在に満足して高く評価してくれるファン層を作っていくために、満足度の改善は伸びしろがあるといえます。

【表 9】来訪者満足度（2020 年）



弟子屈町の観光が抱える課題の全体像

弟子屈の観光事業者やえこまち推進協議会とのワークショップなどを通して「持続可能な観光地域づくり」という観点から見たときに現状の弟子屈が抱える多様な課題を抽出し、ディスカッションを行いました。



3 \ 第3章 / 課題分析と解決に向けたアクション

本章の用語について

基本施策

課題から導きだされた「今後の方針の柱」を基本施策としています。

アクションプラン

基本施策を実現していくための具体的な行動を、アクションプランとして明記しています。各基本施策に対し1つ以上のアクションプランを設定しました。

所管

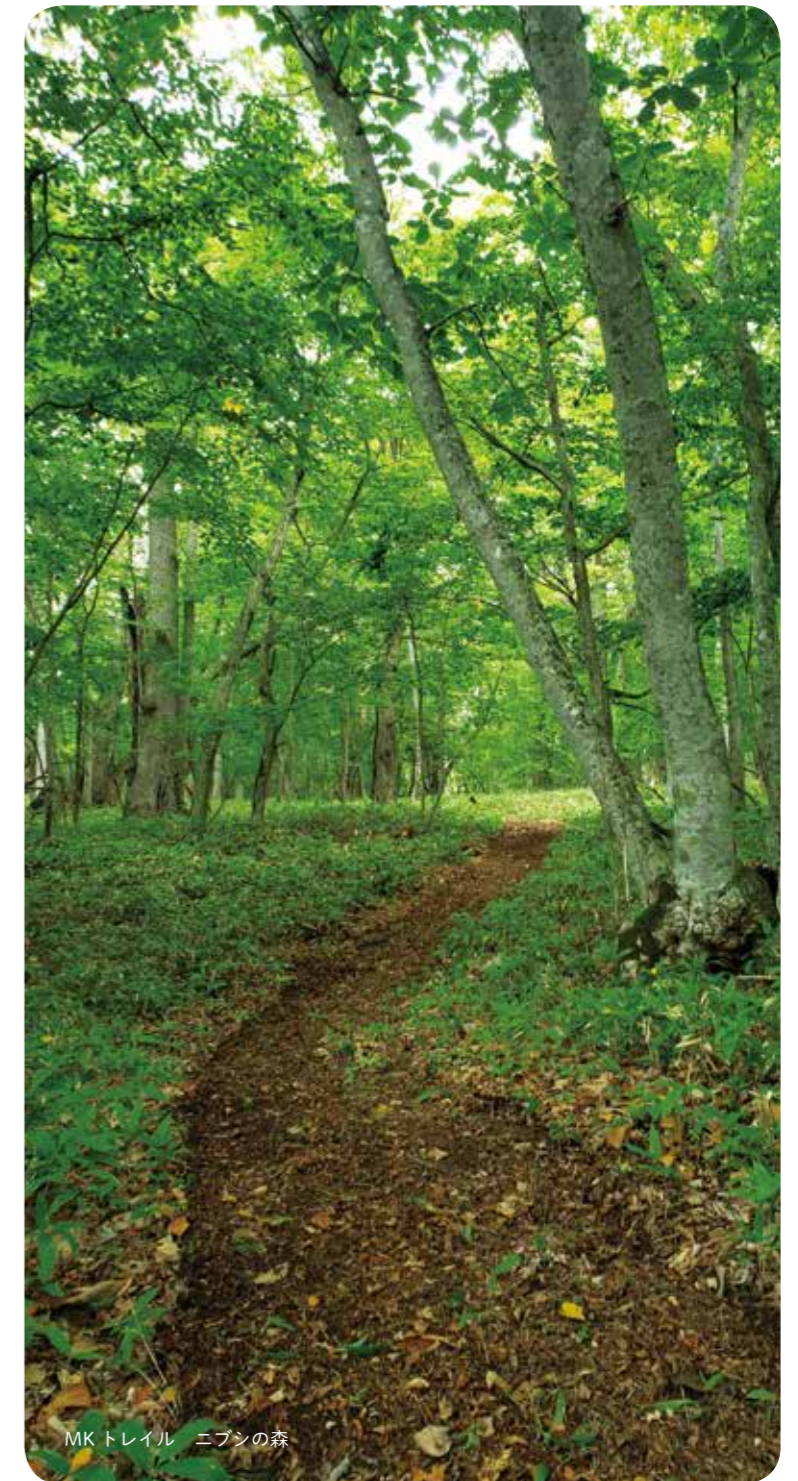
各アクションプランを実施するための舵取りを行う団体

連携

所管の組織とともに、アクションプランを実施していく団体

協力

アクションプラン実施にあたり、合意形成をはかったり、会議への出席や実際の作業への参加等により支援や協力を求める団体



世界基準の観光ガイドラインの導入

弟子屈町らしいビジョンの実現に向けて、
世界基準の観光ガイドラインを導入します。

本計画が掲げる「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」のビジョンを体現し、弟子屈町らしい持続可能な観光の実現に向けて、2020年に観光庁が策定をした国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン (Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations : JSTS-D)」を導入します。

本計画では、町民からのアイデアや課題分析を経て、必要な取り組みをアクションプランとして策定しています。アクションプランはそれぞれ JSTS-D の各指標に紐づけられ、実施状況は国際的な基準に基づきモニタリングしていくこととします。

日本版持続可能な観光ガイドラインとは

国際基準に準拠した指標

日本版持続可能な観光ガイドライン Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations (JSTS-D) は、日本の特性を各項目に反映した上で、GSTC(注1)による観光地向けの持続可能な観光の国際基準「GSTC-D2.0」に準拠した指標として開発され、2020年6月に観光庁よりリリースされました。

持続可能な観光地マネジメントを進める上でのガイドライン

各地方公共団体や観光地域づくり法人(DMO)は、指標に基づいた取り組みを進めることで、持続可能な観光地マネジメントを進めることが可能となります。

4分野から構成される指標

日本版持続可能な観光ガイドラインは、A マネジメント、B 社会経済、C 文化、D 環境の4分野から構成されており、合計47の大項目・113の小項目が設定されています。



持続可能な観光地域づくりの背景



近年、世界各国で持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) に対する関心が高まっています。SDGsは「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓い、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標であり、観光分野においても同様に「持続可能性」を意識した取り組みの推進が世界共通の課題として認識されています。弟子屈町でも本計画及び2022年4月施行の「弟子屈町第6次総合計画」において、SDGsの考え方を取り入れています。

JSTS-D の役割

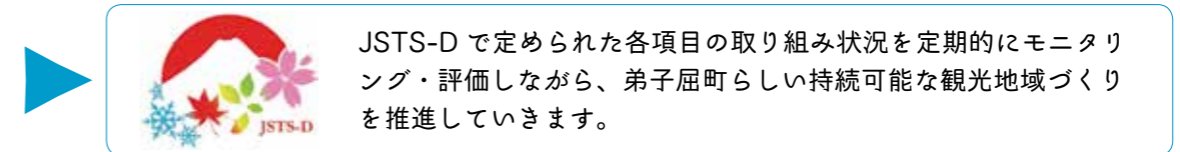
日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)は、主に以下の3つの役割を果たすことが期待されています。



観光政策の決定、観光振興計画の策定に資するガイドラインとして活用

地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組む契機に

観光地域としてのブランド化、国際競争力の向上



弟子屈町が JSTS-D に取り組む理由

「地球環境と、それを運営する組織が持続可能である観光地づくり」を目指すにあたり、地域の観光資源を世界共通の基準で検証することが大切です。取り組みを進めるべき理由として、以下の4点が挙げられます。

- 1 世界基準に則した持続可能な観光地となれる**
国際的に認証された指標に取り組むことは、自治体の取組を国際基準に則したものにすること。グローバルな視点に立ち、観光地経営を行うことは、地域としての責務であると考えます。
- 2 世界中のお客さまから「選ばれる観光地」に**
Booking.comによるアンケートでは世界の86%の人がサステナブルツーリズムを希望しているという結果が出ています。これらのお客さまは、地球環境や旅行目的地の環境に悪影響を与えないよう、自らの行動に気配りを行うことができるとされ、弟子屈町の求める旅行者像と合致します。
- 3 弟子屈の自然・文化を次世代にも継承**
評価項目を用いて自己分析を行うことで、自然や文化をどのように保護していくべきかの課題を明らかにします。これらの課題を検証し、課題解決のための行動を起こすことで自然や文化が保護され、次世代に継承していくことが大切です。またこれらのプロセスを経ることで観光地としての魅力が向上していくことも期待されます。
- 4 SDGsの流れにも対応し、住んでよし・訪れてよしの観光地に**
日本版指標の各項目は、SDGsの17の目標のどれに紐づく取り組みなのかを必ず明示し、人々の暮らしをより持続可能に、豊かにするために考えられた指標となっています。取り組みを進めることは、旅行者だけでなく弟子屈町で働く人、暮らす人にもメリットがあります。

A

持続可能なマネジメント

基本施策とアクションプラン

本計画で定めるビジョンを達成するための「戦略」と「仕組み」がマネジメントです。世界基準に準拠した日本版のガイドライン（JSTS-D）に沿って、町全体の指針を定めることにより計画を推進していきます。各組織の連携のあり方や旅行者の実態の把握、戦略策定などを進めていくのが持続可能なマネジメントです。短期的な目標だけではなく、中長期的な視点で町の観光の向かうべき方向性を定めることが重要です。

持続可能なマネジメントの継続により、住民・観光事業者・旅行者が「弟子屈＝持続可能な観光地をめざすまち」であることを理解し、誇りと愛着を持ったまちにしていくことを目指します。

基本施策Ⅰ 意見交換・連携できる場づくり

関係団体や機関がお互いに連携しながら重複・抜け漏れなく事業を進められるよう、意見交換・連携できる場づくりをします。そして、各事業をスムーズに実行に移す基盤を醸成する取り組みを実施します。



AP1 地域関係者が参画する意思決定の場を新たに設置する

基本施策Ⅱ 観光教育の充実

町民が弟子屈の魅力に気づき、誇りを持ってまちづくりに携わることが、弟子屈町らしい持続可能な観光を実現する第一歩です。次世代を担う子ども達に対するふりさと教育を実施するほか、町民を対象として、観光の可能性や課題にも触れながら文化や歴史の継承に繋がる研修等の取り組みを行います。



AP2 次世代教育の場づくりを推進

基本施策Ⅲ 旅行者の把握と、環境負荷に配慮した消費額向上

観光地のマネジメントをする上で、数値的目標の把握は欠かせません。入り込み客数や消費額の把握に留まらず、観光目的などを把握しながら、社会経済・文化・環境の分野に対する負荷や影響を知る指標を把握します。また、環境への負荷を考慮しながら、地域の観光資源の活用及び消費額の向上をはかります。年間を通じた誘客に向け、体験提供や情報発信、弟子屈ならではの体験の高付加価値化を進めます。



AP3 弟子屈町を訪れる旅行者の数と活動を経年で管理する

AP4 夏季の需要分散化及び年間を通じた消費額向上に向けた取り組み

AP5 四季ごとの豊かな自然等を活用した体験コンテンツの高付加価値化

AP6 ここでしか体験できない新しい価値の創造

基本施策Ⅳ マーケティングと情報発信

地域マネジメントを強化し、観光産業を基軸とした経済循環を作り出すための戦略を策定します。マーケティング手法を取り入れ、ターゲット層に的確に情報を届けるプロモーションを展開します。



AP7 観光地マーケティングと、ターゲットへの適切なプロモーション

基本施策Ⅴ 感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、風邪や季節性インフルエンザと同様に個人個人の咳エチケットや手洗いなどの実施が重要です。今後、新たな感染症の脅威を視野に入れ、町民及び旅行者がお互いに安心して過ごすための取り組みを実施します。



AP8 コロナ禍・コロナ後に対応したニューノーマルの取り組みを推進

基本施策Ⅵ 地域のグランドデザインと適切なゾーニングの設定

弟子屈町の魅力は豊かな自然であり、保全と活用のバランスの維持が欠かせません。今まで自然と共に暮らしてきた町民の声も取り入れながら、乱開発や土地からの資源搾取等を防ぐ適切な土地利用を推進していきます。



AP9 豊かな自然を守る土地の適切な利用計画の策定



美幌峠から望む屈斜路湖

地域関係者が参画する意思決定の場を新たに設置する

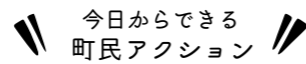
対応 JSTS-D

これまで多くの関係団体・機関が、町民や旅行者のためにさまざまな事業を実施してきました。しかしこれらの中には重複している項目があったり、あるいは抜け落ちている部分があったことも否めません。このようなモレとダブリを無くし、地域を包括的に運営していく観点から、地域の関連団体が集まり、まちづくりについて協議する新たな会議を開催します。会議において情報共有や連携を進め、地域の方針を決めることで、効率的な観光地経営を行っていきます。



具体的なアクション

- DMO 法人の登録
- てしかが地域戦略会議の開催

今日からできる
町民アクション

- 住民主体のまちづくり団体「てしかがえこまち推進協議会」へ参加することで、自分の意見を伝えることができます。

※てしかがえこまち推進協議会は、「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指して活動する

JSTS-D
A1JSTS-D
A2JSTS-D
A6

事業を実施する団体

【所管】・摩周湖観光協会
【連携】・弟子屈町
・協議会における各構成団体

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

次世代教育の場づくりを推進

対応 JSTS-D

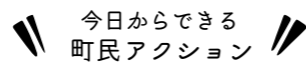
住んでいたいと思える町にしていくためには、自分の町に誇りを持つことが大切。自分の町に目を向け、その良さに気が付くことがまちづくりへの第一歩です。次世代を担う子ども達へのふるさと教育は、小中高と継続して行っていますが、ふるさと教育のステップアッププログラムとして、観光の可能性や課題に対する観光教育プログラムも実践していきます。これらは子ども達だけではなく、地域の皆さんも対象とし、文化や歴史の継承の場としても活用していきます。



具体的なアクション

- ふるさと教育に関する計画策定
- 小中高生に対するふるさと教育の実施（カヌーなどのアウトドアプログラムを中心に弟子屈の魅力に触れるプログラムの構築）
- 高校の「探求学習（※）」へのサポート

※探求学習…小中学校の総合的な学習で学んだことを活かし「自ら学び自ら考える力」を育むことを目的に、2022年の高校新学習指導要領で実施される学習の型

今日からできる
町民アクション

- 子ども達にふるさとの良さを伝える（景勝地に行く、星を見るなど）
- 小中高生は、観光振興計画のアクションの中からテーマを選び、動画作成や探求を行う

事業を実施する団体

【所管】・弟子屈町教育委員会
【連携】・てしかがえこまち推進協議会
【協力】・摩周湖観光協会
・小中高校

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和5年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

JSTS-D
A8

弟子屈を訪れる旅行者の数と活動を経年で管理する

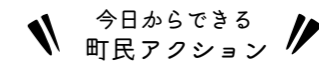
対応 JSTS-D

観光地経営を行う上でのベースとなるのが、旅行者の数と活動の管理です。観光入込客数、宿泊者数を国別・月別に把握し、消費額や目的などを調査することで、観光が環境に与える負荷について経年で管理することが可能になるほか、効果的なプロモーションを行うことができます。調査結果の数値は公表され、必要な人がアクセスすることができます。



具体的なアクション

- 観光入込客数、宿泊者数の調査と公表
- 旅行目的、消費額などに関するアンケート調査の実施
- 結果を基にした適切なプロモーションの実施

今日からできる
町民アクション

- 自分のまちを訪れる旅行者の人数や消費額に関心を持つ

事業を実施する団体

【所管】・摩周湖観光協会
・弟子屈町
【連携】・弟子屈町振興公社
・川湯温泉旅館組合
・釧路観光コンベンション協会

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

JSTS-D
A10JSTS-D
A11

夏季の需要分散化及び年間を通した消費額向上に向けた取り組み

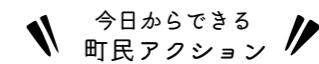
対応 JSTS-D

毎年90万人近くの方が訪れる弟子屈町ですが、その来訪時期は春～秋のグリーンシーズンに極端に偏っています。冬季は寒さという理由以外にも、レンタカーの運転が困難になるなど交通網の課題もあり、旅行者の数が少ないことから冬期間は閉鎖する宿も少なくありません。環境や働く人への負担を軽減するためにも、需要の平準化が必要です。旅行者へ冬ならではの魅力を伝え、必要な交通手段を整備するなど、冬期間の集客を強化する取り組みを続けていきます。



具体的なアクション

- 冬季の魅力、運転のしやすさを発信
- バスや馬そりなど三次交通の整備と情報発信
- 通年営業に向けた取り組み促進

今日からできる
町民アクション

- 冬の魅力を SNS で発信！



事業を実施する団体

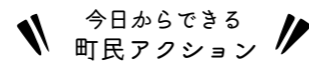
【所管】・摩周湖観光協会
・弟子屈町
【連携】・弟子屈町商工会
【協力】・弟子屈町振興公社

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

JSTS-D
A10JSTS-D
A11

豊かな自然を活かした多くのアクティビティが弟子屈町の魅力のひとつです。カヌーや乗馬、登山、星空観察など従来からある体験コンテンツに加え、トレッキングツアー、サイクリング、湖でのSUPなど近年は新しいコンテンツも開発されています。これらさまざまなコンテンツを、海外富裕層にも訴求力の高い、より高単価・高付加価値な商品へブラッシュアップできるよう、支援を行っていきます。



- カヌーやサイクリングなどの体験ツアーに参加してみる
- 参加の様子を SNS で発信！

JSTS-D A10

JSTS-D A11



具体的なアクション

- 既存のコンテンツを、より高単価 / 高付加価値で提供するための開発支援
- 最新の観光事情について学ぶ研修会の開催
- 多言語化対応の促進
- 効果的なプロモーション

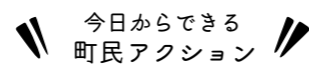
事業を実施する団体

【所管】・摩周湖観光協会
【連携】・弟子屈町
・弟子屈町振興公社
・釧路川流域ネットワーク
【協力】・NPO 法人てしかがトレイルクラブ

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

町内における旅行者が、より上質な滞在時間を過ごせるように、これまでになかった新しい価値の創造に取り組みます。ルールに基づく新たな利用エリアの開放としては、硫黄山での登山再開の先行事例がありますが、屈斜路湖の中島や摩周湖、温泉川周辺などこれまでに利用されていない新たなエリアにおける新規体験コンテンツの造成も今後の取り組み項目のひとつです。また、屈斜路湖畔の施設の上質化推進など、多方向から「弟子屈ならではの」価値創造を進めていきます。



- 自分だけが知っている自然の中での遊び方を、周りの人とも共有する

JSTS-D A10



具体的なアクション

- 屈斜路湖畔の施設の上質化
- ルールに基づく新たな利用エリアの開放
- 新規コンテンツの造成

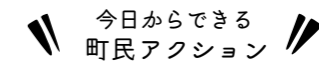
事業を実施する団体

【所管】・弟子屈町
・摩周湖観光協会
【連携】・環境省
・各体験事業者

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

地域として顧客にどのようなサービスを提供し、利益をあげていくのか、その戦略を策定する「destinationマーケティング」の手法を取り入れ、観光地経営を行っていきます。市場の分析に加え、地域の事業者ニーズや観光地としての魅力を適切に把握し、対象となる顧客を定めた上で適切なプロモーションを行います。



- SNS で弟子屈町の魅力を発信する ※ハッシュタグをつけて投稿 #摩周湖 #摩周湖グルメ など

JSTS-D A10

JSTS-D A11

JSTS-D B1



具体的なアクション

- 市場分析の実施
- 弟子屈と相性のよいターゲット戦略の策定
- 事業者に向けたニーズ調査及びインナープロモーション
- オウンドメディアの充実
- SNS を活用した多言語での発信
- 海外にむけたプロモーション

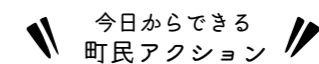
事業を実施する団体

【所管】・摩周湖観光協会
・弟子屈町
【連携】・弟子屈町振興公社
・環境省
【協力】・弟子屈町商工会

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、感染症の恐ろしさと、感染症の流行した社会の制限の窮屈さを一気に知らしめました。ウィルスはコロナに限りません。今後も再び同様の事態が起きるかもしれない。常に備えを万全にしておく必要があります。これは旅行者、事業者、地域住民すべてが安全に過ごすためにも重要です。感染症予防の対策は、フェーズごとに示される「感染症予防ガイドライン」に従って行い、旅行者に対しても周知します。



- 手洗い、消毒など基本的な感染症予防
- 身体を動かし、よく眠り、きちんとした食生活を送ることで健康維持に努める

JSTS-D A16



具体的なアクション

- ガイドラインに沿った感染症予防策の実施
- 感染症対策の実施状況を発信
- 旅行者の連絡先の把握

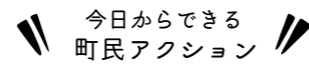
事業を実施する団体

【所管】・弟子屈町（健康こども課）
・弟子屈町商工会
【連携】・川湯温泉旅館組合
・各観光事業者

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

弟子屈町は、豊かな自然が魅力です。同時に、この自然の中に生きる人々の暮らしと自然の距離が近いことも、多くの人を惹きつける魅力のひとつになっています。守る自然と活用のエリアを、適切なランドデザインに基づいたゾーニングにより定めることで、乱開発や土地からの資源搾取等を防ぐことができます。町民意見を十分に反映した計画を策定し、公開していきます。



今日からできる
町民アクション

- 町外の方への土地や家屋の売買に際しては、相手方の目的などをヒアリングし、慎重に判断する

JSTS-D
A12JSTS-D
C1JSTS-D
D1

具体的なアクション

- 土地を守る仕組みの構築
- 乱開発を規制し、水資源を保全する
- 底地の確保に向けた制度策定等を検討する

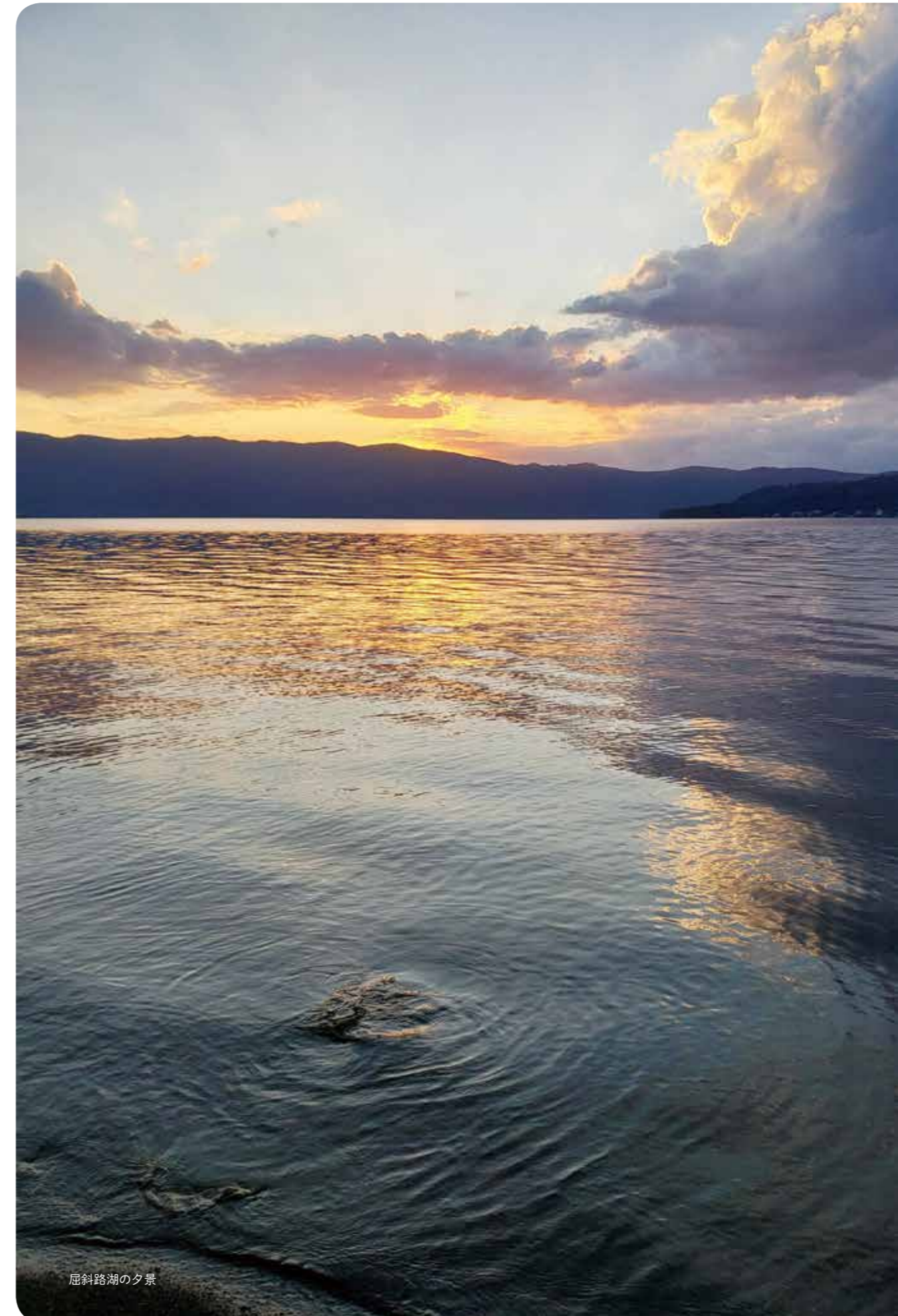
事業を実施する団体

【所管】・弟子屈町

【連携】・環境省

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和5年度から予算化予定
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）



屈斜路湖の夕景

B

社会経済の持続可能性

基本施策とアクションプラン

弟子屈町のコミュニティが安定した雇用や収入獲得、社会サービスの機会を享受し、公平な形で経済的利益の分配につながる観光産業を目指します。観光ではできる限り地産地消を推奨し、地元ならではの魅力を地域経済へと還元していく取り組みを推進します。

摩周メロンや摩周そばなどの特産品や豊富な温泉など、町内の資源を最大限活用し、地域産業と観光が地域内で繋がり循環していく経済を築くことが、弟子屈町における持続可能な経済の発展に繋がります。

社会経済の持続可能性の実現により、観光が外貨を獲得し、地域経済を支える基幹産業として雇用と消費を生んでいる状態を目指します。

基本施策Ⅰ 地域資源を活かした観光地拠点整備

豊かな自然を軸とした地域資源を守りながら適切に活用していくために、温泉街や観光地拠点等のハードおよびソフト面の整備を進めます。

AP1 川湯温泉街の再整備による地域経済への貢献

AP2 観光拠点中核地の活性化

AP3 摩周温泉街の魅力向上



温泉川と霧水

基本施策Ⅱ 地産地消の推進

弟子屈町内の経済循環の創出を図るため、豊かな食の魅力を活かした名産品化及び食料自給率を高める地産地消の取り組み等を実施します。そして、地域内の消費を促進することで環境負荷を軽減するだけでなく、将来的な災害など非常時にも強い地域づくりを目指します。



II -AP4 豊かな食の魅力を活かした名産品化の取り組み支援による付加価値の向上

II -AP5 地元食材の活用など自給率向上の促進



摩周そば

基本施策Ⅲ 観光産業に携わる働きがいの醸成

弟子屈町の観光産業に携わる方々がより働きやすく、働きがいを感じられる環境づくりに繋がる取り組みを実施します。



AP6 社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進

基本施策Ⅳ 多様な受入環境の整備

年齢、性別、文化、身体状況など、人々のさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが訪れやすい観光地としての受入環境の整備を実施します。そして、そこで暮らす町民にとっても「暮らしやすいまち」を目指します。



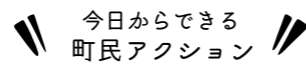
AP7 誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザインの普及

AP8 長期滞在を促す体験や受入体制の整備

AP 1 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 I 地域資源を活かした観光地拠点整備
川湯温泉街の再整備による地域経済への貢献

対象 JSTS-D

古くからアイヌの人々に親しまれ、明治の頃からは湯治場としても栄えた川湯温泉。全国的にも珍しい強酸性のお湯がふんだんに湧き、名湯としても知られています。しかし観光の主流が団体客から個人客へと変化していく中、多くの宿泊施設が閉館。そのほとんどが廃屋となって景観を損なう事態となっています。かつての賑わいをそのまま再現するのではなく、静けさを価値とした国立公園内に灯をともし、新しい魅力ある温泉街を創出していくことで、町に活気を呼び戻します。



- 川湯温泉の日帰り入浴を利用する
- 温泉川の清掃イベントに参加する

JSTS-D B8

JSTS-D A12

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町
・環境省
- 【連携】・川湯地域運営協会
・摩周湖観光協会
- 【協力】・各観光事業者

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

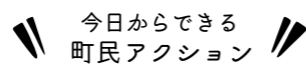
具体的なアクション

- 満喫プロジェクトによる廃ホテルの整理
- 温泉川の清掃と整備
- 街並みの景観改善
- 新規宿泊施設の誘致

AP 2 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 I 地域資源を活かした観光地拠点整備
観光拠点中核地の活性化

対象 JSTS-D

弟子屈町を代表する主要な観光スポットである摩周湖及び硫黄山。訪れる旅行者の満足度を向上させるため、既存の観光施設をハードとソフトの両面から改革していくことが求められています。これにより旅行者の滞在時間が延び、施設における消費額も向上することが期待されます。また、川湯エコミュージアムセンター及び和琴フィールドハウスにおける観光情報やアクティビティ情報の発信機能を強化することで、域内における満足度向上を図ります。



- 摩周湖や硫黄山への訪問
- SNSを使った写真の投稿

JSTS-D B1

JSTS-D B8

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町振興公社 +REVIC(※)
・弟子屈町
- 【連携】・環境省
・北海道
・自然公園財団
・摩周湖観光協会

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

具体的なアクション

- 摩周湖レストハウスの改修
- 硫黄山レストハウスの改修
- 川湯エコミュージアムセンター及び和琴フィールドハウスを活用した情報発信強化
- レストハウスからの情報発信

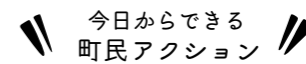
※ REVIC…地域活性化支援機構
弟子屈町振興公社に対し、観光遺産産業化ファンドによる投資及び経営人材派遣を行っています。

AP 3 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 I 地域資源を活かした観光地拠点整備
摩周温泉街の魅力向上

対象 JSTS-D

明治18年開湯で、道東最古の湯といわれる摩周温泉。しかし平成19年頃よりホテルの閉業が続き、廃屋となったホテルが景観を損ねています。そのため、今後は廃ホテルの撤去や新規宿泊施設の誘致などを通じ、観光地としての魅力を向上させる取り組みが必要です。

また現在、中心市街地においても中核施設の建設等が予定されていることから、道の駅摩周温泉までの観光客の導線を考え、効果的な情報発信を行っていきます。



- 摩周温泉の日帰り入浴を利用する
- 道の駅摩周温泉を利用する
- SNSでの魅力発信（#摩周温泉）

JSTS-D B3

JSTS-D B8

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町
・弟子屈町商工会
- 【連携】・摩周湖観光協会
・一般社団法人みちえき摩周直売会

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

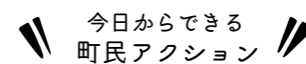
具体的なアクション

- 弟子屈市街地の廃ホテル撤去による景観改善
- 新規宿泊施設の誘致
- 摩周温泉及び弟子屈市街地に関する効果的な情報発信
- 道の駅摩周温泉の魅力向上

AP 4 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策 II 地産地消の推進
豊かな食の魅力を活かした名産品化の取り組み支援による付加価値の向上

対象 JSTS-D

冬と夏の気温差が60℃以上にもなる弟子屈町は、寒暖差のもたらす甘みの強い農産物や、摩周和牛や弟子屈ポークといった畜産物、生乳、温泉熱を活かした果実栽培、湖の恵みである水産資源などに恵まれています。既に特産品として活用されている食材はさらなる高付加価値化を目指した商品開発を進めるとともに、その利活用を推進し、安定供給の体制構築を進めていきます。また、これまでなかった「弟子屈ならでは」の新たな名産品の開発も進めていきます。



- 弟子屈町産の食材を購入する

JSTS-D B3

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町（農林課）
・弟子屈町商工会
・摩周湖農業協同組合
- 【連携】・摩周湖観光協会
・料飲店組合
- 【協力】・一般社団法人みちえき摩周直売会

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

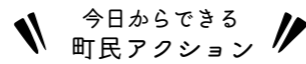
具体的なアクション

- 名産品開発の検討
- 水産資源の利活用の検討
- 農畜産物の高付加価値化及び販売促進
- パッケージデザインの開発

AP 5 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策II 地産地消の推進
地元食材の活用など自給率向上の促進

対象 JSTS-D

地元で採れたものを地元で使う地産地消を進めていくことは、移送にかかるコストや地球へのインパクトを軽減する「フードマイレージの削減」や、地域内での取引が増えることによる「経済循環の促進」、災害時に強いまちづくりの礎となる「自給率の向上」など多くのメリットがあります。飲食店や宿泊施設などの事業者や学校給食、町内の各家庭にも、地元食材を積極的に活用してもらえようようにニーズ調査や仕組み作りを行っていきます。



- 弟子屈町産の食材を使って料理する
- 地元産食材を積極的に使っている飲食店を利用する

JSTS-D
B3

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町（農林課）
 ・弟子屈町商工会
 ・摩周湖農業協同組合
- 【連携】・摩周湖観光協会
 ・料飲店組合
- 【協力】・一般社団法人みちえき摩周直売会

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

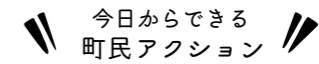
具体的なアクション

- 事業者の要望調査
- 供給体制の見直し（セントラルキッチンなどの検討）
- 規格外品の積極的な活用及び販売の促進

AP 7 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策IV 多様な受入環境の整備
誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザイン（※）の普及

対象 JSTS-D

少子高齢化が進む現代において、今後も高齢者や心身に障がいを抱える方の旅行需要はますます高まってくるでしょう。すべての方に使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を普及させることは、旅行地にとっての責務であるとともに、町民にとっても「暮らしやすいまち」をつくることに他なりません。そのためには、施設や設備、看板の改修などハード面での整備と、研修によるおもてなし力の向上やマップ・ステッカーなどの提供などソフト面での普及の双方が必要です。



- 身体の不自由な旅行者への声かけ
- 使いやすさに対するアイデアや意見を届ける（⇒窓口：弟子屈町役場 福祉課）

JSTS-D
B8

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町（福祉課）
 ・てしかがえこまち推進協議会
- 【連携】・摩周湖観光協会
- 【協力】・各観光事業者

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

具体的なアクション

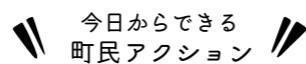
- 施設のバリアフリー化に対する補助制度の創設
- バリアフリーに対する現状、問題点の把握
- バリアフリー情報の発信
- 旅行者に対するサポート体制の充実

※ユニバーサルデザイン…年齢、性別、文化、身体状況など、人々のさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとする考え方のこと

AP 6 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策III 観光産業に携わる働きがいの醸成
社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進

対象 JSTS-D

IT化が進み、工学技術が発達しても機械化できないのが観光業です。働く人の環境を整え、生きがいを持って働ける職場づくりは観光業にとって何より大切なことです。離職率が高かったり、人材不足であることは、単に新たな働き手を確保するだけでは解決できません。地域の現状に即した観光のあり方について、意見交換や連携を促進していくことで、働く方々にとっての働きやすい職場づくりを進めていきます。また働く方々の住宅確保についての支援策も検討していきます。



- 小売店、飲食店、宿泊施設などでの気持ちのいい対応には「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える

JSTS-D
B2

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町商工会
 ・川湯温泉旅館組合
- 【連携】・弟子屈町
- 【協力】・各観光事業者

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

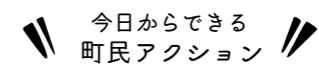
具体的なアクション

- 観光のあり方に関する意見交換の実施
- 各種研修会の開催
- 異種事業所による連携の促進
- 働き手の住宅確保に向けた取り組み支援

AP 8 B 社会経済の持続可能性 > 基本施策IV 多様な受入環境の整備
長期滞在を促す体験や受入体制の整備

対象 JSTS-D

避暑地としての長期滞在の需要が多かった道東ですが、コロナ禍においてオフィスを使わないテレワークが急激に広がったことにより、地方の優位性が顕著化しています。「暮らすように旅する」ことを是とする価値観の変容が「ワーケーション」に代表される新しい働き方・滞在のスタイルを生み出しました。長期滞在者の増加は交流人口が増加することであり、弟子屈町の今後に大きな影響を及ぼす大切な要素です。今後も設備の充実やロングトレイルの整備などを通し、長期滞在者の受入整備を進めていきます。



- 長期滞在の旅行者と出会う機会があればあいさつや声かけを行う

JSTS-D
B8

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町
 ・各観光事業者
- 【連携】・弟子屈町商工会
 ・摩周湖観光協会
 ・NPO法人てしかがトレイルクラブ

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

具体的なアクション

- コワーキングスペースの整備
- 長期滞在の施設整備に対する補助制度拡充
- wi-fi環境の充実
- トレイル（歩く道）整備
- トレイルネットワーク構想の推進

C

文化の持続可能性

基本施策とアクションプラン

独自に育んできた社会文化を尊重する弟子屈町らしい観光産業を育てることが、そこに息づく文化、歴史、伝統的な価値観の保存・継承に繋がります。そして、独自の社会文化を活かした取り組みは、その活動自体が価値を持つだけでなく、町民の誇りや郷土愛を生み、共通の心の拠りどころとなるものです。

今後、文化の持続可能性を視野に入れた観光を推進することで、将来的な後継者や従事者不足の解消に向けて、次世代の担い手を育てる取り組みを推進していきます。

文化の持続可能性を推進することで、観光が地域の文化の継承と創造に活力を生んでいる状態をめざします。

基本施策Ⅰ 社会文化を尊重する観光を促進

弟子屈町ならではの文化や歴史、暮らしを次の世代にも伝え、地域としてのアイデンティティを育てる取り組みを実施します。

AP1 地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙



基本施策Ⅱ 文化遺産の観光拠点整備

貴重な「地域のストーリー」を伝える施設の整備・改修、それらの施設への誘客に繋がる取り組みを実施します。

AP2 展示施設の適切な管理



アトサヌプリ (硫黄山)

AP 1

C文化の持続可能性 > 基本施策Ⅰ 社会文化を尊重する観光を促進
地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙

対応 JSTS-D

自然資源に恵まれた弟子屈町は、古来よりアイヌの人々が多く暮らす地としても知られていました。先住民の方々の暮らしや文化、開拓者としてこの地に鉄を下げた多くの入植者、硫黄採掘や温泉地の賑わいなど、この地の歴史を後世に伝えていくことは地域のアイデンティティを確立するために必要不可欠な要素です。こうした「地域のストーリー」を伝え続けていくため、適切な研修制度を整備し、旅行者に伝える仕組みを作っていきます。

今日からできる
町民アクション

- おじいちゃん、おばあちゃんに聞いた話を子ども達に伝える
- 地域の歴史に関する出版物を読んでもみる (弟子屈町史、町政要覧等)



具体的なアクション

- 小中高生への地域に関する学びの時間、機会をつくる
- 聞き書きなど地域の歴史を残す活動の継続
- 語り部の養成
- 旅行者への分かりやすい展示
- 学芸員等の専門家登用

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町教育委員会
・てしかがえこまち推進協議会
・てしかが郷土研究会
- 【協力】・小中高校
・各観光施設

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：短期 (1～2年のうちに着手)

AP 2

C文化の持続可能性 > 基本施策Ⅱ 文化遺産の観光拠点整備
展示施設の適切な管理

対応 JSTS-D

歴史や文化など「地域のストーリー」を伝えるための各施設は、地域住民と旅行者の双方にとって大切な存在です。

現在ある「弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館」「弟子屈町郷土資料館『蔵』」「更科源蔵文学資料館」「大鵬相撲記念館」などの各施設は、今後も適切に管理し、必要な補修や改修を行いながら分かりやすい展示を行っていきます。

今日からできる
町民アクション

- 町内の展示施設へ行ってみる



具体的なアクション

- 展示施設の管理
- 弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館の改修
- 展示施設への誘客促進

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町教育委員会
- 【連携】・てしかが郷土研究会
- 【協力】・小中高校
・各観光施設

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期 (1～2年のうちに着手)

D 環境の持続可能性

基本施策とアクションプラン

阿寒摩周国立公園に位置する弟子屈町は、硫黄山や屈斜路湖、摩周湖を擁し、豊かな生態系が広がっています。これらは弟子屈町の唯一無二の資源です。

限りある資源を「守りながら活かす」ことを念頭に、自然環境と観光が共存していく循環を作ることが重要となります。そのために、観光資源をモニタリングし、土地の使い方、ごみに対する対策、環境負荷のかからない二次交通の整備など、構造的な改革を検討していきます。

環境の持続可能性を推進することで、観光が地域の自然資源の保護と活用のバランスを生んでいる状態をめざします。

基本施策Ⅰ 自然資源の保護と活用

豊かな自然及びその生態系を次の世代にも引き継ぐために、モニタリングによって環境資源の保全と活用の適切なバランスを図ります。さらに、環境負荷の少ないエコツーリズムや、希少な野生生物の保護や増殖に繋がる取り組み等を実施することで、観光資源の適切な活用や環境保全につながる方針・制度・体制を整備します。



- AP1 エコツーリズム推進全体構想を活用した、適切なモニタリングと生態系の維持
- AP2 エコツーリズム推進全体構想を活用した、エコツーリズムの推進
- AP3 希少な野生生物の保護増殖

基本施策Ⅱ 環境負荷の軽減

最先端の技術やアイデアを導入し、環境負荷の軽減に資する取り組みを推進します。二次交通としての電気自動車の活用やトレイルの整備、再生エネルギーの導入、ゴミ排出量の削減、水質向上に向けた取り組みなど、旅行者向けから町民の日々の暮らしに根ざしたものまで、多様な取り組みを実施します。



- AP4 環境負荷が少ない二次交通の整備
- AP5 脱炭素に向けた取り組み
- AP6 廃棄物やプラスチックの使用を削減する
- AP7 水質向上のための取り組み

AP 1 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅰ 自然資源の保護と活用 エコツーリズム推進全体構想を活用した、適切なモニタリングと生態系の維持

対応 JSTS-D

弟子屈町の豊かな自然を適切に活用し、多様な生態系を次世代に継承していくため、エコツーリズム推進全体構想で定められた「自然観光資源」について、制定された調査方法により継続的なモニタリングを行っていきます。これにより、弟子屈町の自然観光資源にどのような変化が起こっているのかを正確に把握し、問題が起こっている場合はその対処方法について、関係機関との協議を行います。

今日からできる
町民アクション

- 自然の中へ遊びに行く
- 定期的に行われている外来種駆除やゴミ拾いなどのイベントに参加する

JSTS-D
D2

JSTS-D
D4

具体的なアクション

- 定められたモニタリング
- モニタリング結果の定期的な検証
- 生態系保全のための事業者向け講習会開催

事業を実施する団体

【所管】・てしかがえこまち推進協議会
(エコツーリズム推進全体構想運営委員会)

【連携】・弟子屈町
・環境省

【協力】・釧路川源流域ネットワーク

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

AP 2 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅰ 自然資源の保護と活用 エコツーリズム推進全体構想を活用した、エコツーリズムの推進

対応 JSTS-D

エコツーリズムとは「地域ならではの特色」を生かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのこと。弟子屈町ではエコツーリズムを推進するための指針を定め、2016年には北海道で初めて、環境省の認定地域に選出されています。2019年には全体構想の枠組みを利用し、独自の立ち入り制限をかけることにより、硫黄山でのガイド付きのツアー販売も始まりました。今後も弟子屈町の資源である豊かな自然を生かした「エコツアー」を推進することで、弟子屈の自然に関心を持つ旅行者を増やし、環境の保全につなげていきます。

今日からできる
町民アクション

- カヌー、サイクリング、トレッキングなど町内で行われているエコツアーに参加する

JSTS-D
D1

JSTS-D
D2

JSTS-D
D3

JSTS-D
D4

JSTS-D
C8

具体的なアクション

- トレイル（歩く道）の活用
- 町ぐるみでの、エコツアーの推進
- エコツーリズム推進に関わる広報活動

事業を実施する団体

【所管】・てしかがえこまち推進協議会
(エコツーリズム推進全体構想運営委員会)

【連携】・弟子屈町
・環境省

・NPO法人てしかがトレイルクラブ
【協力】・釧路川源流域ネットワーク

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

AP 3 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅰ 自然資源の保護と活用
希少な野生生物の保護増殖

対応 JSTS-D

生物多様性は、地域の自然がどのように保たれているかを測る重要なバロメーターです。弟子屈町にも多くの野生生物が生息していますが、その中には環境省が絶滅危惧種と定める希少な動植物も含まれています。これらの野生生物を保護する上で懸念されるのが、特定外来種に代表される在来種を脅かす外来種の繁殖や、環境の悪化等による生息地の減少、事故を誘発する餌付け行為、乱獲などです。多くの野生生物が弟子屈町で今後も生息していけるように、生息地の保護と外来種駆除、マナー啓発などを続けていきます。

具体的なアクション

- 野生生物のモニタリング調査
- 希少な野生生物の保護と増殖
- 生息地の保全
- 外来生物、外来植物の駆除
- 野生生物との関わりについてのマナー啓発

今日からできる
町民アクション

- 弟子屈に生息する動植物に興味を持つ
- 外来種の駆除活動へ参加する
- 野生の動物に近寄らない、餌をやらない

JSTS-D
D3

JSTS-D
D4

JSTS-D
D5

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町
・環境省
- 【連携】・観光事業者
・NPO 法人てしかがトレイルクラブ
- 【協力】・町民

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

AP 4 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅱ 環境負荷の軽減
環境負荷が少ない二次交通の整備

対応 JSTS-D

手つかずの自然が多く残る一方で、空港から遠く、公共交通手段の少ない弟子屈町では、旅行客の移動手段はレンタカーが主軸です。より多くの方に弟子屈の魅力を満喫していただくため、環境負荷の少ない自転車やJRの利活用の促進、電気自動車のレンタル、徒歩や自転車での周遊ルートの開発等を積極的に推進していきます。また、特定の観光地へのマイカー入域を規制する社会実験等を経て、環境への影響について検証していきます。

具体的なアクション

- チョコモやレンタサイクルなど環境負荷の少ない新モビリティの普及啓発
- トレイル（歩く道）の整備
- JR 釧網線の利活用促進
- 硫黄山や摩周湖でのマイカー規制実験
- 電気自動車の充電場所の充実

今日からできる
町民アクション

- 歩く習慣をつける
- 自転車に乗って買い物へ出かける
- エコドライブを心がける
- 移動にJRやバスを使ってみる

JSTS-D
D13

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町
- 【連携】・環境省
・レンタサイクルやガイドを行う民間事業者
- 【協力】・NPO 法人てしかがトレイルクラブ

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

AP 5 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅱ 環境負荷の軽減
脱炭素に向けた取り組み

対応 JSTS-D

森林資源に恵まれた弟子屈町においては、町全体の温室効果ガス排出量は、森林の吸収量を下回っています。しかし地球規模の問題に向き合うため、町としての排出量を正確にモニタリングし、排出を抑制していくための取り組みを継続することが欠かせません。観光業においても、国立公園の「ゼロカーボンパーク」化に合わせ、再生可能エネルギーへのシフトや省エネを進めていきます。

具体的なアクション

- 再生可能エネルギーに関する研修会の実施
- 宿泊施設の省エネ化を推進するための補助制度の推奨
- 温室効果ガス削減の取り組みを行っている観光事業者の調査及び調査結果の公表

今日からできる
町民アクション

- 自宅の照明をLED電球に交換する
- 車や家電を買い替える際は、エコカーや省エネ家電を選択する
- 再生可能エネルギーを利用した電力会社へ契約を切り替える

JSTS-D
D7

JSTS-D
D12

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町（環境生活課）
- 【連携】・環境省
・観光事業者
- 【協力】・町民

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

AP 6 D 環境の持続可能性 > 基本施策Ⅱ 環境負荷の軽減
廃棄物やプラスチックの使用を削減する

対応 JSTS-D

町全体でゴミの排出量を減らし、環境に負荷をかけない取り組みを進めていきます。特に使い捨てのプラスチック製品の使用を減らすことで、地球規模での資源保全に貢献し、環境に配慮した旅行地としての姿勢を明確にします。脱プラスチックと並行し、再生資源の利用やリサイクルを推進します。また、ゴミのポイ捨てを減らすため、旅行者に対するゴミ回収システムの浸透や、町民によるゴミ拾い運動、フードロス削減を実施していきます。

具体的なアクション

- 旅行者のゴミを回収するシステムの構築
- ゴミ拾いアプリの活用促進
- ウォーターサーバーの設置
- 再生紙や再生プラスチックの積極的な活用
- フードロス削減への呼びかけ

今日からできる
町民アクション

- プラスチック製品をなるべく買わない
- 出かける時にはマイボトルを持参する
- 日用品にリサイクル製品を活用する
- 長く使える製品を地元のお店から購入する
- ゴミ拾いアプリを使って、自宅の周りのゴミを拾う

JSTS-D
B4

JSTS-D
D9

JSTS-D
D11

事業を実施する団体

- 【所管】・弟子屈町（環境生活課）
- 【連携】・環境省
・観光事業者
- 【協力】・町民

上記体制を念頭に調整し、実施

- 財源：今後の予算化の検討が必要
- 時期：中期（3～5年のうちに着手）

対応 JSTS-D

屈斜路湖や摩周湖、釧路川など豊かな水資源に恵まれた弟子屈町。美しい水を後世まで使い続けるためには、水質の変化に気を配り、水を汚さないための取り組みが必要不可欠です。

そのためには、排水のシステムを整える「仕組みの変換」と、排水の中身を変えていく「意識の変換」の両面から取り組みを進めていく必要があると考えています。

〽 今日からできる 〽
町民アクション

- 下水道への接続
- 自然に還る石けんや洗剤を使う

JSTS-D
D9

JSTS-D
D10

事業を実施する団体

【所管】・弟子屈町（環境生活課）

【連携】・観光事業者
・川湯温泉旅館組合
・環境省

【協力】・釧路川流域ネットワーク

上記体制で引き続き実施していく

- 財源：令和4年度から予算化予定
- 時期：短期（1～2年のうちに着手）

具体的なアクション

- 水質のモニタリング
- 下水道の敷設、接続の要請
- 浄化装置設置に対する補助
- 生分解性石けんの使用促進



和琴半島先端より望む屈斜路湖とオヤコソ地獄

4 \ 第4章/ アクションプランを後押しする 組織と取り組み、財源

アクションプランを後押しする弟子屈町独自の組織

一般社団法人摩周湖観光協会（地域 DMO）

1999年（平成11年）に、社団法人 摩周湖観光協会として活動を開始し、公益法人法の改正に伴い、2014年（平成25年）、一般社団法人 摩周湖観光協会へ移行登記しました。2016年（平成28年）に日本版 DMO 候補法人へ登録、2021年度には観光地域づくり法人（DMO）へ登録されました。

役割

弟子屈町及び弟子屈町を中心とする地域の観光宣伝、観光客誘致促進、観光施設の整備改善、観光関係者の資質の向上等に努めることにより、観光事業の健全な発展を図り、町民生活文化の向上及び地域産業経済の発展に寄与することを目的としています。

令和4年以降は DMO として、これらの業務に加え、マーケティング及びマネジメントを行うことで効率的な観光地経営を行なっていきます。

定款で定められた主な事業

- 1) 観光客の受入れ対策に関する事業
- 2) 観光客の誘致及び観光宣伝に関する事業
- 3) 観光イベントの実施、支援及び誘致に関する事業
- 4) 地方公共団体等の施設の運営受託に関する事業
- 5) その他この法人目的を達成するために必要な事業

令和3年度の主な事業実績

- ホームページの運営（弟子屈なび）
- SNS 運営（facebook / Instagram）
- パンフレット、フライヤーの提供
- 観光施設の管理運営業務（川湯ふるさと館）
- 観光案内所の運営（JR 摩周駅 / 道の駅摩周温泉）
- 弟子屈町ふるさと納税返礼品発送業務
- 各団体支援
- イベント主催（川湯の森ナイトミュージアム等）
- 各補助事業を活用した業務

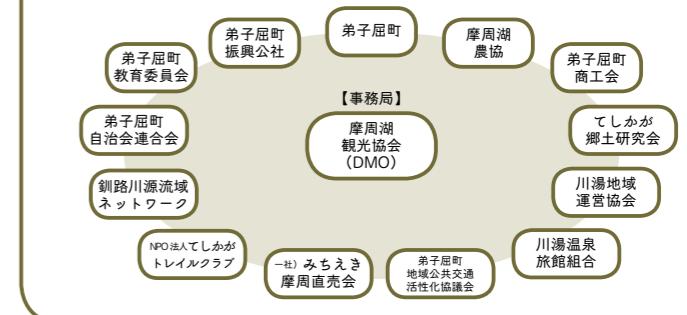
てしかが地域戦略会議の開催

観光と農業を謳う弟子屈町において、観光業で外貨を稼ぐことが必要不可欠です。経済団体の中心である右記の各団体が、合意を形成する場であると共に、何を行い、何を行わないかを意思決定する場として活用していきます。

観光地域づくりには、摩周湖観光協会が推進役となることで、観光を基軸とした町づくりの発展に寄与すると共に、弟子屈町独自の仕組みであるてしかがえこまち推進協議会の枠組みの中で連動を進めていきます。

てしかがえこまち推進協議会

地域の意思決定をはかる「てしかが地域戦略会議」



住民主体のまちづくり団体

てしかがえこまち推進協議会は「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指し、観光を基軸としたまちづくりを進める住民主体の団体です。誰でもが参加でき、町内のあらゆる組織を包括した協議会として、2008年（平成20年）に発足しました。

エコロジーとエコノミー

「えこまち」の「えこ」は、ecology（環境保全）とeconomy（経済）の2つの意味があります。観光を基軸に、農業、商業、工業、流通、交通などさまざまな分野が活気づき、町の中で人やモノ、お金が循環するような仕組みを考え、実践していきたいという想いが込められています。自分の町に誇りを持ち、一人一人が生き生きと暮らせる地域づくりを行うことで魅力ある観光地をつくりあげていく、そして多くの産業に波及効果が見込まれる観光業を活性化させることで、町の経済を立て直したいとさまざまな活動を行っています。

組織

協議会の会長を弟子屈町長、副会長を商工会長と観光協会長、事務局を弟子屈町役場が担う体制となっていますが、活動の主体は、住民だけで構成される8つの専門部会です。このほか、構成団体として町内のあらゆる組織が関わっています。

会長は町長

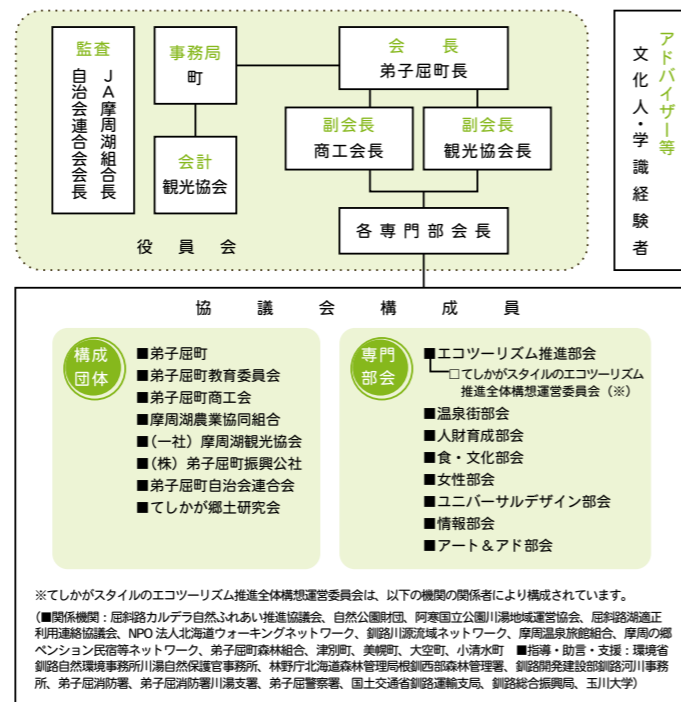
活動を公的なものと位置付けるため、協議会会長は町長が務めています。

活動の主体は町民

8つの専門部会は、会社員、自営業、農業、主婦、役場職員などさまざまな職種の町民によって構成されています。

観光地域づくりに必要な、町民の意見やアイデアを集約できる場として貴重な存在となっています。令和4年以降は「てしかが地域戦略会議」の運用も行い、地域の重要な意思決定を行っています。

てしかがえこまち推進協議会 構成図



※てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想運営委員会は、以下の機関の関係者により構成されています。
 (関係機関：屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会、自然公園財団、阿寒国立公園川湯地域運営協会、屈斜路道正利用連絡協議会、NPO法人北海道ウォーキングネットワーク、釧路川源流域ネットワーク、摩周温泉旅館組合、摩周の部ペンション民宿等ネットワーク、弟子屈町森林組合、津別町、美幌町、大空町、小清水町 ■指導・助言・支援：環境省釧路自然環境事務所川湯自然保護官事務所、林野庁北海道森林管理局釧路西部森林管理署、釧路開発建設部釧路河川事務所、弟子屈消防署、弟子屈消防署川湯支署、弟子屈警察署、国土交通省釧路運輸支局、釧路総合振興局、玉川(大)学)

組織

各専門部会では、それぞれに定める「部会目標」に沿って、さまざまなイベントや講習会の開催、企画、印刷物の発行などを行っています。また、これらの専門部会ごとの活動の他に、協議会全体としての取り組みもあります。

各専門部会の活動

- エコツーリズム推進部会
- 人財育成部会
- 女性部会
- 食文化部会
- ユニバーサルデザイン部会
- 情報部会
- ART 部会
- 温泉街部会

協議会全体での活動

- てしかが観光塾の開催 (年1回)
- 合同専門部会の開催 (1～3カ月に1回)
- エコツーリズムの推進 (てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想の運用)
- その他
 - ・ 視察対応
 - ・ 講演
 - ・ 各種会議への参加

協議会は、弟子屈町民であれば誰でも加入することができます。詳細は事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

えこまち事務局：
 弟子屈町役場 観光商工課
 015-482-2940
 ecomachi@masyuko.or.jp

アクションプランを後押しする取り組み

持続可能な観光地域づくりを進めていくにあたり、各種アクションプランの推進力となる取り組みをご紹介します。観光政策は種まき。収穫までの行程に近道はなく、小さな積み重ねがとても大切です。

主な取り組み

- 国立公園満喫プロジェクト
- てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想
- 企業との連携協定
- 水のカムイ観光圏
- 日本「持続可能な観光」地域協議会
- カーボンニュートラル

国立公園満喫プロジェクト

日本の国立公園を、世界の旅行目的地に

「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき環境省が進めるのが「国立公園満喫プロジェクト」。日本の国立公園を、世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にするため、阿寒摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園の全国8か所の国立公園で、インバウンドに対する取り組みを計画的・集中的に実施しています。

満喫プロジェクトステップアッププログラム 2025

阿寒摩周国立公園における事業の方向性は「3つのカルデラと湖、そして原生自然から感じとるカムイの存在」。外国人宿泊者に加え、国内旅行者にとっても魅力ある国立公園とするため、引き続き2025年までの早期に、冒頭のイメージに基づいた各種事業を実施していきます。

2020年までの主な成果

- アドベンチャートラベルの推進
- 国立公園の新たな活用
 - ・ 川湯ナイトミュージアムの開催
 - ・ 屈斜路外輪山トレイルの整備
- 官民連携による民間投資の促進
 - ・ 川湯エコミュージアムセンターにおける民間カフェ導入
 - ・ 川湯廃屋撤去と、その後の民間投資
 - ・ 公設野営場でのグランピング
- 快適な公共空間の整備
 - ・ 砂湯野営場のトイレ等整備
 - ・ 和琴野営場のウッドデッキ新設
 - ・ 川湯温泉街における遊歩道整備

2025年に向けた取り組み

- ウィズ&ポストコロナ時代への対応
 - ・ 川湯温泉の再生、魅力のブランド化
- アドベンチャートラベルの推進
 - ・ AT ツアーの造成
 - ・ 川湯エコミュージアムセンター整備
- 官民連携による利用拠点の再生
 - ・ 川湯廃屋撤去と、その後の民間投資
 - ・ 摩周湖及び硫黄山レストハウスのリニューアル
- トレイルネットワークの形成
 - ・ 摩周屈斜路トレイルのルート拡充
- 自然の付加価値を高める新たな利活用
 - ・ 多言語化看板の設置
- 持続可能な観光の推進

北海道で初めての全体構想認定地域に

エコツーリズムとは「地域ならではの特色」を活かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのことを指します。「地域ならではの特色」には、地域固有の自然環境や歴史、文化などが挙げられ、旅行者がこれらを体験しながら学ぶ「エコツアー」に参加することで、環境と経済の好循環が生まれることが期待されています。

弟子屈町では、てしかがえこまち推進協議会を中心に、エコツーリズムを推進するための地域の指針「全体構想」を策定し、2016年（平成28年）に国の認定を受けました。これにより全国で8番目、北海道では初めての「全体構想認定地域」となっています。

全体構想策定による成果

- 弟子屈町の自然観光資源の定義づけが完了（P6参照）
- エコツアーのルールを策定
- 地域資源を守るための独自の立入制限
↓
アトサヌプリ（硫黄山）でのガイドつきトレッキングツアーの実現
- 運送法の規制緩和の適用により、エコツアー中のお客様送迎が可能に

事業実施に関わる団体

(主管)
てしかがえこまち推進協議会内
てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想運営委員会

(構成団体)
屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会・自然公園財団・阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会・屈斜路湖適正利用協議会・釧路川源流域ネットワーク・摩周温泉旅館組合・摩周の郷ペンション民宿等ネットワーク・弟子屈町森林組合・津別町・美幌町・大空町・小清水町

連携協定

阿寒摩周国立公園活性化に向けた摩周エリア観光資源磨き上げ連携協定

2021年（令和3年）3月、弟子屈町は、株式会社地域経済活性化支援機構（REVIC）、環境省、北海道、北洋銀行株式会社、釧路信用金庫及び北海道エアポート株式会社との7者で「阿寒摩周国立公園活性化に向けた摩周エリア観光資源磨き上げ連携協定」を締結しました。連携協定の締結により、それぞれが有するノウハウやネットワークを最大限活かし、弟子屈町をはじめとした摩周エリアにおける観光資源を磨き上げ、国内外の旅行者の誘致と広域連携の促進、観光消費額等の増大をはかることで観光産業の発展と持続可能な地域づくりのモデル構築が期待されています。

公設野営場の連携に関する協定

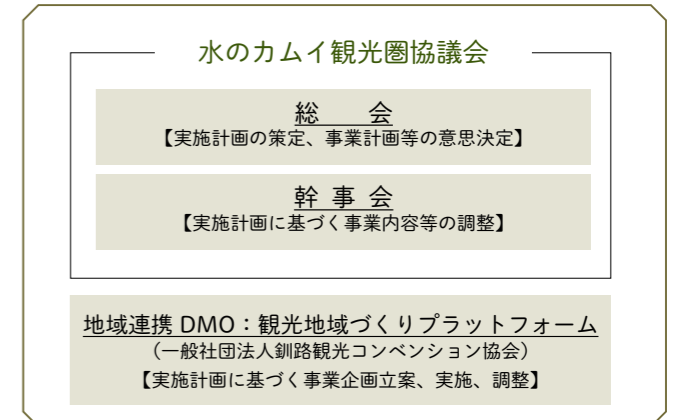
2019年（平成31年）12月、環境省、北海道、弟子屈町は、それぞれが整備したキャンプ場の管理運営について連携・協力するため「阿寒摩周国立公園及び弟子屈町内の公設野営場の連携に関する協定」を締結しました。民間企業との連携により公設キャンプ場のサービス向上及び国立公園の自然を活かした地域活性化につながることを期待し、連携協定の締結後、それぞれの設置した国立公園内及び周辺のキャンプ場3箇所の管理を株式会社 Recamp（本社：東京都目黒区中目黒、代表取締役：丹埜論）が一括して担うこととなりました。

これにより、和琴野営場がRECAMP 和琴へ、砂湯野営場がRECAMP 砂湯へ、桜ヶ丘森林公園オートキャンプ場がRECAMP 摩周へとそれぞれ名称変更され、2020年（令和2年）6月より新たな体制・サービスでの運用が始まりました。

釧路市と弟子屈町からなる広域観光圏

水のカムイ観光圏は、釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園、希少で貴重な自然と生態系を持つ2つの国立公園を有する広域観光圏です。圏域において一体的に観光地域づくりを推進することを目的に、「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏（2010年度～2014年度）」、「水のカムイ観光圏（2015年度～2019年度、2020年度～第2期）」として認定を受け、弟子屈町及び釧路市、観光関係団体、交通事業者など官民の連携による協議会を組織し、地域一体となった取り組みを展開してきました。10年間の取り組みにより、圏域におけるwi-fi環境の整備が進み、観光客も増加するなど一定の成果も出ています。

水のカムイ観光圏実施体制



令和6年度までの取り組み

- 滞在コンテンツ造成事業（AT推進）
- 観光圏バス運行（阿寒摩周号）
- 観光圏ホームページによる情報発信
- 全国観光圏マーケティング調査（来訪者満足度、旅行消費額等）
- セミナー開催などを通じた人材育成

日本「持続可能な観光」地域協議会

全国8自治体との連携協議会

2021年7月、弟子屈町は、持続可能な観光地域づくりを行う全国の7市町と共同で「日本『持続可能な観光』地域協議会」を設立しました。協議会においては、持続可能な観光に関する各種取り組みとして、専門家派遣や情報交流、セールスプロモーションなどを「持続可能な観光地域づくりモデル市町村形成事業」として連携して行っています。

主な事業

- GSTC研修会の開催
- 専門家派遣、教材開発
- 持続可能な観光の取り組みに資する情報交流及びコミュニケーション促進
- 構成自治体のセールスプロモーション

事業実施体制

(事務局) 観光SDGs支援センター
(中核法人) 一般社団法人地域観光研究所

事業期間

2021年7月～



加盟自治体
(8市町)

弟子屈町では、平成 27 年に策定された「弟子屈町温暖化対策実行計画」に基づき、二酸化炭素排出量を抑えるさまざまな取り組みを行ってきました。令和 3 年には、2050 年までに二酸化炭素排出量ゼロをめざす「てしかがゼロカーボンシティ宣言」が表明されています。

てしかがゼロカーボンシティ宣言

近年、地球温暖化の進行やその影響による異常気象から、世界的に甚大な自然災害が頻発しています。弟子屈町でも経験のない集中豪雨が発生するなど、気候変動が日常の生活を脅かす事態が起こり始めています。

弟子屈町としてもこの危機的状況に向き合い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みを強化することとしました。

2015 年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を 2°C 未満とし、1.5°C に抑えるように努力する」との目標が国際的に共有されています。さらに 2018 年に公表された IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告では、「気温上昇を 2°C より低い 1.5°C に抑えるためには、2050 年までに二酸化炭素の排出量をゼロにする必要がある」と示されています。

弟子屈町では、これまでも公共施設では、豊富な温泉の温泉熱を活用した暖房設備や雪氷冷熱を活用した冷房設備、地中熱を活用した冷暖房設備などを推進し、一般家庭でも温泉を活用した浴用・暖房設備を推進してきました。

また、農業では温泉熱を活用した温室栽培や、バイオガスエネルギーでの発電に取り組み、観光でも脱炭素の電気自動車活用や二酸化炭素の影響調査のため、町を代表する景勝地である摩周湖への、自家用車交通規制、BDF バス運行などの先駆的実験も実施してきたところです。

今後は、さらに地熱を利用した発電事業など、環境に配慮し持続可能なまちづくりのため、積極的な温暖化対策に取り組みます。

ここに弟子屈町は、弟子屈町温暖化対策実行計画を着実に実行し、2050 年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指す「てしかがゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言いたします。

令和 3 年 12 月 10 日
弟子屈町長 徳永哲雄

ゼロカーボン・パークの推進

ゼロカーボンパークとは、国立公園における電気自動車等の活用、国立公園に立地する利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地域づくりを実現していくエリアのことで、

環境省では、国立公園において先行して脱炭素化に取り組むエリアを「ゼロカーボン・パーク」として推進しています。

弟子屈町独自の観光財源について

財源については今後の検討課題

本計画に記載の各事業を推進していくためには、多くの予算が継続的に必要です。これまで、町独自の観光予算のほか、クラウドファンディング型ふるさと納税、地方創生交付金、北海道観光振興機構補助事業などさまざまな資金を活用してきましたが、安定的かつ継続的に使える観光予算の新設が今後の課題と考えています。近隣では観光振興に用途を限定した入湯税の増税を行った阿寒湖温泉や、環境保全と観光振興への財源として宿泊税を創設した北海道倶知安町などの例があります。各地の先進事例を参考に、関係機関との意見交換を丁寧に行いながら、今後の財政のあり方について検討していきたいと考えています。

事例 1

釧路市・阿寒湖温泉

【税目】 入湯税
【税額】 150 円 → 250 円（2016 年～）
【対象】 国際観光ホテル登録旅館・ホテル

阿寒湖温泉では、2016 年度より 10 年間、阿寒湖温泉の旅館 4 軒に宿泊する一般客の入湯税を 150 円から 250 円に引き上げています。上乘せした分は新設した基金に積み立てられ、阿寒湖温泉の観光地域づくりに用途を限定して活用されます。基金の積み立ては年間 4800 万円ほどとなります。（登録旅館以外の宿泊客に対する入湯税は旧来通り 150 円）

事例 2

山口県・長門湯本

【税目】 入湯税
【税額】 150 円 → 300 円（2020 年～）
【対象】 長門湯本温泉

長門市では、2020 年度より長門湯本温泉の利用者に限定し、入湯税を 150 円から 300 円に引き上げています。上乘せした分は新設した基金に積み立てられ、長門湯本温泉の魅力づくりに活用されます。条例改正により、入湯税を原資に公益性の高い事業や景観づくりに投資していく仕組みが構築され、魅力的な温泉街を持続させていくための観光地経営の取り組みが始まっています。

事例 3

北海道・倶知安町

【税目】 宿泊税
【税額】 宿泊料金の 2%（2019 年～）
【対象】 倶知安町内の宿泊施設

世界的なスキーリゾートのニセコ地区を抱える倶知安町では、2019 年より全国初の定率制の宿泊税を徴収しています。対象は町内のホテルやコンドミニアム、民泊などあらゆる宿泊施設で、飲食などを除いた宿泊料金に 2%

の宿泊税が課税されます。東京都や大阪府が実施している「定額制」に比べ、富裕層により多くの税額を求めます。税収は年 2 億 5 千万～3 億円で、域内の交通網整備（冬季の交通渋滞対策）や羊蹄山周辺環境保全、観光インフラの整備事業などに充てられています。

なお、ニセコ町でも同様の宿泊税の導入を検討していたが、新型コロナウイルスの影響や宿泊事業者との協議が進んでいないため、目標としていた 2022 年 6 月の導入を見送る方針とされています。

5 \ 第5章 / 成果目標の設定

成果目標の考え方

「行きたいまちへ、生きたいまちへ。」を
グローバルな成果指標に。

Green Destinations TOP100 ※下記参照

弟子屈が持続可能な観光地を目指すにあたって、
JSTS-Dの基準及び、そのベースとなっている GSTC-Dの
グローバルな視点に基づき、成果目標の設定を行います。

2023年までに「Green Destinationの世界トップ100」への登録をめざし
その後も選ばれ続けるような取り組みを継続します。

JSTS-Dの各項目に基づき
進捗と成果を継続的に検証していきます。

ビジョン達成のためには、JSTS-Dの項目にもとづき
アクションプランの進捗と成果を継続的に検証する必要があります。
したがって成果目標も基本施策・アクションプラン同様、
「持続可能なマネジメント」「社会経済の持続可能性」「文化の持続可能性」「環境の持続可能性」
の4つの項目に沿って設定していきます。

各項目については、2025年までの中期的な目標値として「メイン指標」を設定するとともに、
サブ指標として各アクションプランの進捗を継続的に検証します。

Green Destinations

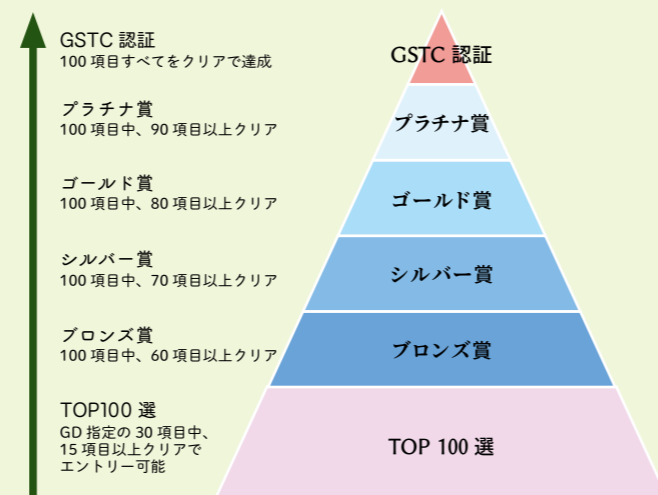
国際認証団体の一つであるグリーン・デスティネーションズ (GD) では、
GSTC-Dをベースとした100項目からなる Green Destinations Standard (GDS)
を設けており、これら全てについて、GDが設定する基準を満たすと、観光地が
GSTC認証を受けられます。

GDでは、段階を踏んで認証を目指していけるよう、取り組みの過程にいくつか
の表彰制度を設けています。これらの取り組みの最初のステップとなるのが、右図
のピラミッドの一番下にあたる「TOP100選」です。

日本では、岩手県釜石市が2018年にTOP100選、2019年にブロンズ賞を獲得
しています。なお世界でも、100項目全てをクリアし、GSTC認証を取得した都市
は2021年現在で米国コロラド州ヴェイルなど3都市のみと非常にハードルの高い
認証制度として知られています。

弟子屈町でも、JSTS-Dによる自己診断と並行して、Green Destinationsによる
認証制度の申請を通し、世界的に選ばれる持続可能な観光地をめざしていきます。

【図】 Green Destinations Standard による GSTC 認証取得までのステップ



目標設定 (KPI)

観光振興計画全体を通して目標とする数値を「メイン指標」としています。
メイン指標の下には、各セクションの施策毎の「サブ指標」を定め、進捗を継続的に検証することでメイン
指標の目標に近づくことができます。
指標化できないアクションプランについては、各項目に記載のアクションを着実に実行していきます。

「持続可能なマネジメント」に関する指標

持続可能なマネジメントの推進によってめざす弟子屈の姿

持続可能なマネジメントを継続することによって、
町民 / 観光事業者 / 観光客が「弟子屈＝持続可能な観光地をめざす」ことを理解し、
その土地に誇りを持っている状態

メイン指標

町民の満足度及び観光振興計画についての認知度・理解度・共感度を中期的な目標として設定します。

【町民満足度】

2020年 43% → 2025年 50%
「大変満足」及び「満足」

観光振興計画に対する
町民の認知度
0% → 20%

観光振興計画に対する
町民の理解度
0% → 20%

観光振興計画に対する
町民の共感度
0% → 20%

※いずれもデータは町民アンケート

サブ指標

各アクションプランの進捗を継続的に検証します。

分類	施策	JSTS-D	サブ指標
基本施策Ⅰ	意見交換・連携できる場づくり	A1,A2,A6	・会議開催回数 ・えこまち会員数
AP 1	地域関係者が参画する意思決定の場を新たに設置する		
基本施策Ⅱ	観光教育の充実	A8	・ふるさと教育の実施回数
AP2	次世代教育の場づくりを推進		
基本施策Ⅲ	旅行者の把握と、環境負荷に配慮した消費額向上	A10,A11	・平均滞在日数 ・季節入込数 ・事業者の平均年収
AP3	弟子屈を訪れる旅行者の数と活動を経年で管理する		
AP4	夏季の需要分散化及び年間を通じた消費額向上に向けた取り組み		
AP5	四季ごとの豊かな自然を活用した体験コンテンツの高付加価値化		
AP6	ここでしか体験できない新しい価値の創造		
基本施策Ⅳ	マーケティングと情報発信	A10,A11,B1	・チャンネル数 ・プレス回数 ・情報リーチ数
AP7	観光地マーケティングと、ターゲットへの適切なプロモーション		
基本施策Ⅴ	感染症への対応	A16	・感染症取り組み状況
AP8	コロナ禍・コロナ後に対応したニューノーマルの取り組みを推進		
基本施策Ⅵ	地域のランドデザインと適切なゾーニングの設定	A12,C1,D1	・利用計画策定会議体設置状況
AP9	豊かな自然を守る土地の適切な利用計画の策定		

「社会経済の持続可能性」に関する指標

社会経済の持続可能性の推進によってめざす弟子屈の姿
観光が外貨を獲得する事で、
地域経済を支える基幹産業として雇用と消費を生んでいる状態

メイン指標

2024年にコロナ前水準へ回復することを目安として「量から質へのシフト」を進めます。

【観光入込客数】 2019年（コロナ前）比 101% へ

※弟子屈町観光統計



【旅行消費単価】



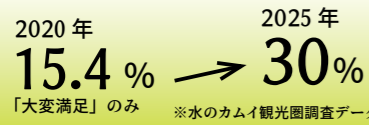
※水のカメラ観光調査データ

【宿泊者数】



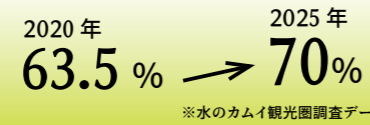
※弟子屈町観光統計

【来訪者満足度】



※水のカメラ観光調査データ

【リピーター率】



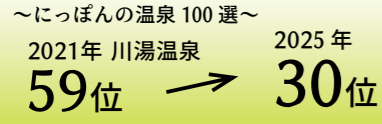
※水のカメラ観光調査データ

【観光消費額】

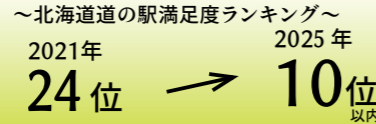


※観光入込客数×旅行消費単価

【温泉ランキング】



【道の駅ランキング】



【弟子屈なびアクセス数】



サブ指標

各アクションプランの進捗を継続的に検証します。

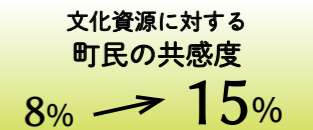
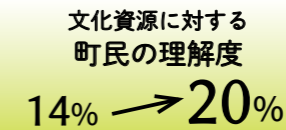
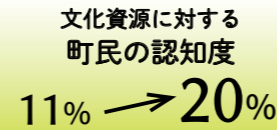
分類	施策	JSTS-D	サブ指標
基本施策Ⅰ	地域資源を活かした観光地拠点整備	A12, B1, B3, B8	・宿泊施設数 ・日帰り入浴利用者数 ・硫黄山及び摩周湖の来訪者数
AP1	川湯温泉街の再整備による地域経済への貢献		
AP2	観光拠点中核地の活性化		
AP3	摩周温泉街の魅力向上		
基本施策Ⅱ	地産地消の推進	B3	・地場産食材のメニューがある店舗数 ・域内調達率
AP4	豊かな食の魅力を活かした名産品化の取組支援による付加価値の向上		
AP5	地元食材の活用など自給率向上の促進		
基本施策Ⅲ	観光産業に携わる働きがいの醸成	B2	・研修会の開催状況
AP6	社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進		
基本施策Ⅳ	多様な受入環境の整備	B8	・町内Wi-fi設置箇所数 ・バリアフリー研修回数
AP7	誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザインの普及		
AP8	長期滞在を促す体験や受入体制の整備		

「文化の持続可能性」に関する指標

文化の持続可能性の推進によってめざす弟子屈の姿
観光が地域の文化の継承と創造に、
活力を生んでいる状態

メイン指標

町民/観光客の、弟子屈の文化資源についての認知度・理解度・共感度を中期的な目標として設定します。



※いずれもデータは町民アンケート

サブ指標

各アクションプランの進捗を継続的に検証します。

分類	施策	JSTS-D	サブ指標
基本施策Ⅰ	社会文化を尊重する観光を促進	A7, C5, C7, C8, D3	・研修の受講者数
AP1	地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙		
基本施策Ⅱ	文化遺産の観光拠点整備	A12, C1	・資料館来訪者数
AP2	展示施設の適切な管理		



屈斜路コタン アイヌ民族資料館

「環境の持続可能性」に関する指標

環境の持続可能性の推進によってめざす弟子屈の姿
観光が地域の自然資源の保護と活用の
バランスを生んでいる状態

メイン指標

町民 / 観光客の、弟子屈の自然資源についての認知度・理解度・共感度を中期的な目標として設定します。

自然資源に対する
町民の認知度
46% → 55%

自然資源に対する
町民の理解度
20% → 30%

自然資源に対する
町民の共感度
16% → 25%

※いずれもデータは町民アンケート

サブ指標

各アクションプランの進捗を継続的に検証します。

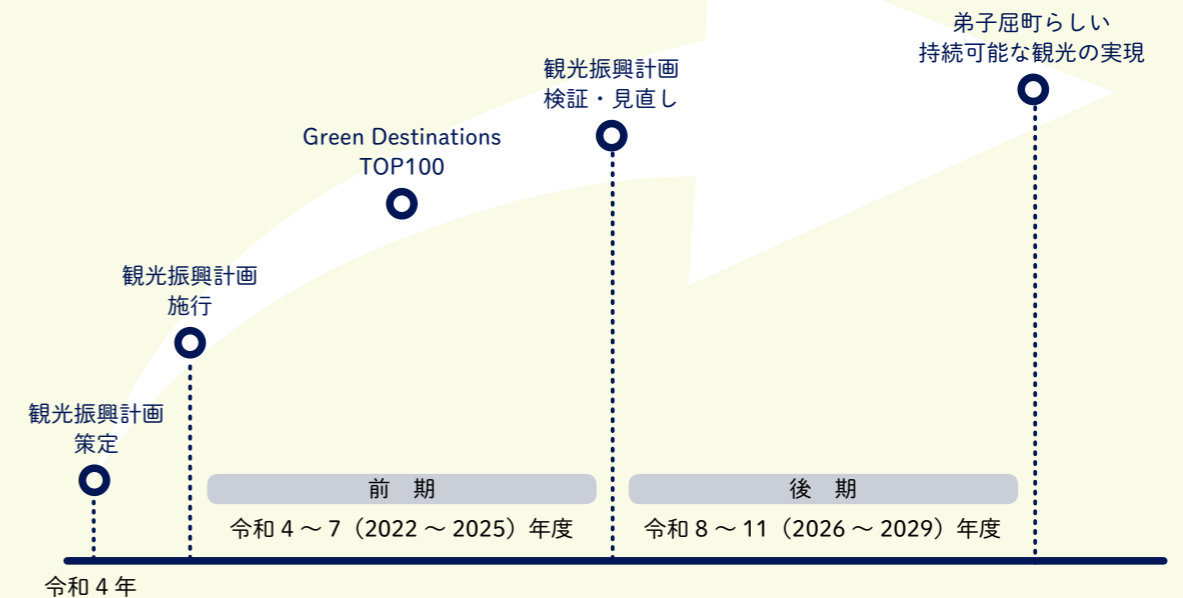
分類	施策	JSTS-D	サブ指標
基本施策Ⅰ	自然資源の保護と活用	C8,D1,D2, D3,D4,D5	・アウトドアガイド人数 ・アトサヌプリトレッキングツアー参加者数 ・外来種駆除実施回数
AP1	エコツーリズム推進全体構想を活用した、適切なモニタリングと生態系の維持		
AP2	エコツーリズム推進全体構想を活用した、エコツーリズムの推進		
AP3	希少な野生生物の保護増殖		
基本施策Ⅱ	環境負荷の軽減	B4,D7,D9, D10,D11, D12,D13	・摩周湖の透明度 ・ウォーターサーバーの設置箇所数 ・再生可能エネルギーを採用した宿泊施設数 ・電気自動車の充電場所
AP4	環境負荷が少ない二次交通の整備		
AP5	脱炭素に向けた取り組み		
AP6	廃棄物やプラスチックの使用を減らす取り組み		
AP7	水質向上のための取り組み		

9〇〇草原から摩周岳方面を望む

6 \ 第6章 / 事業展開の方向性

8年後を見据えたロードマップ

第6次弟子屈町総合計画の対象期間に合わせ、本計画では前期(令和4～7/2022～2025年度)と後期(令和8～11/2026～2029年度)に分け、ロードマップを策定します。特に、前期にあたる令和4年度から7年度においては、重点的に強化すべき事項が多いことから、随時事業の進捗を確認し、実施していきます。前期の成果や課題などを検証しながら後期のロードマップを策定し、「弟子屈町らしい持続可能な観光」の実現に向けた取り組みを進めていきます。

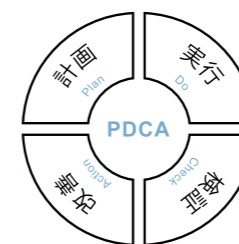


PDCA サイクルと OODA ループ

本計画において定められた各施策の進捗は、PDCA サイクルに基づき検証を行っていきます。しかし、めまぐるしく変化を続ける世界情勢や現代の観光事情に柔軟に対応するため、状況に応じた適切な判断を行えるよう、各アクションプランにおける検証には OODA ループも取り入れていくこととします。

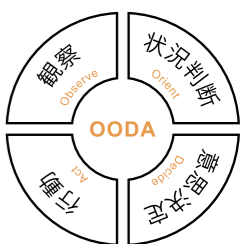
PDCA サイクル

Plan (計画) Do (実行)
Check (測定・評価・検証)
Action (改善)
の工程を一方方向に回していくことで、マネジメントの品質を高めることができます。



OODA (ウーダ) ループ

Observe (観察)：観察することによって現状を認識
Orient (状況判断)：観察結果から、状況判断
Decide (意思決定)：具体的な方策や手段に関する意思決定を行う
Act (実行)：意思決定したことを実行に移す
OODA ループは、文字通りループであるため、必要に応じて途中で前の段階に戻ってループから再開したり、状況に応じて任意の段階からループをリスタートしたりできることが大きな特徴です。



観光振興計画ロードマップ

前期 (2022 ~ 2025)

後期 (2026 ~ 2029)

2021 (令和 3) 年度

2022 (令和 4) 年度

~ 2025 (令和 7) 年度

2026 ~ 2029 (令和 8 ~ 11) 年度

2030 (令和 12) 年度 ~

これまでの分類

観光宣伝

観光地域づくり

交通

景勝地の整備

雇用

川湯温泉の整備

観光振興計画の策定

A 持続可能なマネジメント

- AP 1 地域関係者が参画する意思決定の場を新たに設置する
- AP 3 弟子屈町を訪れる旅行者の数と活動を経年で管理する
- AP 7 観光地マーケティングと、ターゲットへの適切なプロモーション
- AP 8 コロナ禍・コロナ後に対応したニューノーマルの取り組みを推進

検証・見直し

- AP 2 次世代教育の場づくりを推進
- AP 3 弟子屈町を訪れる旅行者の数と活動を経年で管理する
- AP 4 夏季の需要分散化及び年間を通じた消費額向上に向けた取り組み
- AP 5 四季ごとの豊かな自然等を活用した体験コンテンツの高付加価値化
- AP 7 観光地マーケティングと、ターゲットへの適切なプロモーション

B 社会経済の持続可能性

- AP 1 川湯温泉の再整備による地域経済への貢献
- AP 2 観光拠点中核地の活性化
- AP 6 社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進

検証・見直し

- AP 1 川湯温泉の再整備による地域経済への貢献
- AP 2 観光拠点中核地の活性化
- AP 4 豊かな食の魅力を活かした名産品の取り組み支援による付加価値の向上
- AP 6 社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進
- AP 7 誰もが安心して過ごせるユニバーサルデザインの普及
- AP 8 長期滞在を促す体験や受入体制の整備

C 文化の持続可能性

- AP 1 地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙
- AP 2 展示施設の適切な管理

検証・見直し

- AP 1 地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙
- AP 2 展示施設の適切な管理

D 環境の持続可能性

- AP 1 エコツーリズム推進全体構想を活用した適切なモニタリングと生態系の維持
- AP 2 エコツーリズム推進全体構想を活用したエコツーリズムの推進
- AP 7 水質向上のための取り組み

検証・見直し

- AP 1 エコツーリズム推進全体構想を活用した適切なモニタリングと生態系の維持
- AP 2 エコツーリズム推進全体構想を活用したエコツーリズムの推進
- AP 4 環境負荷が少ない二次交通の整備
- AP 5 脱炭素に向けた取り組み
- AP 6 廃棄物やプラスチックの使用を削減する
- AP 7 水質向上のための取り組み

振り返り&見直し・目標値設定

- AP 6 ここでは体験できない新しい価値の創造
- AP 9 豊かな自然を守る土地の適切な利用計画の策定

+

- 前期から継続して実施するアクションプラン
- 見直しによって新規に実施するアクションプラン

- AP 3 摩周温泉街の魅力向上
- AP 5 地元食材の活用など自給率向上の促進
- AP 6 社会文化を尊重した観光のあり方に関する意見交換・連携を促進

+

- 前期から継続して実施するアクションプラン
- 見直しによって新規に実施するアクションプラン

- AP 1 地域のストーリーを伝える適切な研修制度の整備と旅行者への啓蒙
- AP 2 展示施設の適切な管理

+

- 前期から継続して実施するアクションプラン
- 見直しによって新規に実施するアクションプラン

- AP 3 希少な野生動物の保護増殖
- AP 4 環境負荷が少ない二次交通の整備

+

- 前期から継続して実施するアクションプラン
- 見直しによって新規に実施するアクションプラン

「つづける・つたえる・つなぐ・つくる」を、
町民も訪れる人も理解し、行動している状態

Sustainable Destination
「行きたしまち」「生きたしまち」

※1つのアクションプランの中に複数のアクションが含まれるため、重なって記載されている箇所があります。
※各アクションプランは単年度で終わるものではなく、すべて継続して実施していきます。
※年度ごとにPDCAサイクルに基づいた検証を行い、随時内容の見直しと変更を行っていきます。

※後期のアクションプランは、2025年度終了時までにはしっかりと見直しを行い、改めてプランとKPIを設定します。

巻末資料

皆さまからのアイデア集

本計画の策定においては、町民の皆様にご多くの貴重なご意見や今後の具体的な取り組みアイデアを頂きました。全てのアイデアは弟子屈町の未来を作っていくために欠かせないものです。観光振興計画として現段階で掲載することは難しかったものの、ご提案いただいた取り組みアイデアを下記に紹介させていただきます。

観光資源の活用

- * 星空を活用した観光体験の造成
- * 三密を避けるツアーの開発
- * 屈斜路湖・中島での探索ツアーの造成
- * 国立公園でのウェディングフォトプラン
- * ゴルフツーリズムや、スポーツツーリズムの開発



川湯温泉の活性化

- * 温泉川や遊歩道に名前をつける
- * 街中拠点の再整備（バスターミナル）
- * 温泉街の一部を歩行者優先道路に変更
- * 温泉街へとつながる導線に、デザイン看板を設置

具体的なツールを作る

- * ユニバーサルなアイコンを作る
- * 統一コンセプトによる観光マップ、冊子、ウェブサイトを制作
- * えこパスのおしゃれ化

学べる観光のあり方を整備

- * 弟子屈の魅力を発信する語り部を含むツアー造成
- * 動画の制作
- * 弟子屈高校に観光学科を作り、人材を育成する

環境負荷の軽減

- * レンタル自転車を活用した、観光ルートの開発
- * 電動キックボードのシェアリング
- * 環境負荷に配慮したオリジナルボトルの開発
- * 屈斜路湖や釧路川源流の利用についての条例制定



用語集

あ

インナープロモーション

本稿で使用されているインナープロモーションとは、弟子屈町内において地元ならではの観光魅力や観光計画に対する認知・関心の向上および理解の浸透を図る活動を指す。

インバウンド

インバウンド (Inbound) とは、外国人が訪れてくる旅行のこと。日本のインバウンドとは、訪日外国人旅行や訪日旅行を指す。(出典：JTB 総合研究所)

オウンドメディア

弟子屈町のホームページや SNS など、自分たちで運営するメディアのこと。

オーバーツーリズム

サステナブルツーリズムの反対語。特定の観光地において、訪問客の著しい増加等が、地域住民の生活や自然環境、景観等に対して受忍限度を超える負の影響をもたらしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。世界の観光地で、観光客の増加による交通機関の混雑や交通渋滞、ゴミや騒音など生活環境の悪化が住民の反発を招いたり、自然環境保護のため人気の高いビーチが閉鎖されるなどの状況が発生している。

か

カーボンゼロ (ゼロカーボン)

企業や家庭から出る二酸化炭素 (CO2) などの温暖化ガスを減らし、森林による吸収分などと相殺して実質的な排出量をゼロにすること。「カーボンニュートラル」とも呼ばれる。政府は 2020 年 10 月、50 年までにカーボンゼロを達成する目標を掲げた。海外では欧州が 50 年、中国が 60 年までに「実質ゼロ」とすることを打ち出している。

クレド

スローガンを元に、実際に行動するときの価値基準や行動指針のこと。

コワーキングスペース 【Coworking space】

コワーキングスペースは CO = 共同、ワーキング = 仕事、スペース = 場所を指し、企業や個人事業主に関わらず一緒に仕事ができる場所を指す。誰でも使用できるスペースや会員制など様々なサービスが生まれている。

さ

サステナビリティコーディネーター

GSTC を通して発見した、地域の強みや弱みを分析し、持続可能な観光を弟子屈で作るにはどうしたらいいのかを考え、先導して実行する人材。

持続可能な観光 (サステナブルツーリズム)

地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを重要視しながら、観光地に住む住民と観光客とが相互に潤うことが重要という考え方に基づいた観光。地域住民・旅行者・環境が持続可能であり続けるには、どうすべきかを念頭に置いて、観光地の開発やサービスのあり方を考える旅の形。

持続可能な開発目標 SDGs 【Sustainable Development Goals】

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として 2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っているもの。(出典：外務省)

ステートメント

スローガンを補足する声明書。

スローガン

弟子屈町のめざす旅行地の姿を簡潔に言い表した語句。ビジョン。

セントラルキッチン

一般的にセントラルキッチンとは、大量の食材を 1 箇所に集め効率的に調理をする大型施設を指す。本計画においては、大量生産大量消費に繋がるセントラルキッチンではなく、弟子屈町における食料自給率を高めるために、無駄なく地元の食材を流通させるシステムの一つとしてセントラルキッチンの活用を検討する。

た

滞在コンテンツ

体験だけではなく、宿泊を伴う旅行商品のこと。

デスティネーション

旅行目的地、旅行先のこと。その範囲は行政区単位とは限らず、国や都市、地域全体を指すことがある。

テレワーク

テレワークとは「tele = 離れたところ」と「work = 働く」を合わせた造語。テレワークとは、「ICT (情報通信技術) を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」を指す。インターネットなどの ICT を利用することで、本来勤務する場所から離れ、自宅などで仕事をする柔軟な働き方。(出典：厚生労働省)

は

ビジョン

これから描く未来像のイメージや方向性のこと。

フードマイレージ

フードマイレージとは食料の輸送量に距離を掛け合わせた指標。地球環境に与える負荷を把握するものとして使われている。(出典：農林水産省)

プロモーション

本稿で使用されているプロモーションとは、地域の観光魅力を発信し、誘客促進・販売促進活動のことを指す。

ま

マストツーリズム

観光の大衆化。レジャーとしての観光。大型バスで観光地に訪れる低価格重視な旅行プランが中心。環境問題やオーバーツーリズムにつながると懸念されている。

や

ユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障がいによりもたらされるバリア (障壁) に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。(出典：総務省)

わ

ワーケーション

ワーケーションとは、英語の Work (仕事) と Vacation (休暇) を合わせた造語。定義は多様であり、普通の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得を推進する「休暇」を重視する認識もあれば休暇と併用し、旅先で業務を組み合わせて「余暇を楽しみつつ仕事をする」滞在のことを示す場合もある。

A

DMO

ディーエムオー (DMO) とは Destination Management/Marketing Organization の略称であり、観光地域づくり法人を意味する。「観光地域づくり法人は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人」とされている。(出典：観光庁)

GSTC 【Global Sustainable Tourism Council】

訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光 (出典：UNWTO)

JSTS-D (日本版持続可能な観光ガイドライン) 【Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations】

「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」はグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会 (GSTC: Global Sustainable Tourism Council ※) が開発した国際基準である観光指標をベースとした日本向けガイドライン。